第3回　河川レンジャー
大阪ブロック運営会議（R8.3.2）
資料－4

# 令和8年度河川レンジャー活動基本計画　大阪ブロック（案）

【大阪ブロック】

福島出張所管内

毛馬出張所管内

枚方出張所管内

高槻出張所管内

# 目　次


福島出張所管内河川レンジャー

兒玉　曜子　（18期生:2年目）　…… 1
白川　公彦　（19期生:1年目）　…… 4
西畑　緑　（20期生:試行）　…… 8

毛馬出張所管内河川レンジャー

伊藤　茂　（12期生:8年目）　…… 10
波戸　睦　（19期生:1年目）　…… 13

枚方出張所管内河川レンジャー

道場　明子　（14期生:6年目）　…… 16
岡村　雅広　（17期生:3年目）　…… 19
天野　康生　（18期生:2年目）　…… 22
土井　宣史　（20期生:試行）　…… 26

高槻出張所管内河川レンジャー

杉本　真一　（14期生:6年目）　…… 28
竹本　克巳　（16期生:4年目）　…… 32
奥山　佳一　（19期生:1年目）　…… 39
小林　勝男　（19期生:1年目）　…… 42
竹本　晃佑　（20期生:試行）　…… 45

連携活動　…… 48

| 氏名 | 兒玉　曜子 | 区分 | 河川レンジャー（1期2年目） | 所属 | 福島出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等
自身の住所地淀川区の名前となっている「淀川」に以前から関心があり、自然環境を学んでいくうちに環境保全活動や防災など地域の川の課題を知ることになったことがきっかけである

（2）川の課題と整備計画のつながり
川の課題：地域住民に川の環境保全・利活用・防災について取り組んでいくことを目指す
河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：327(景観)332　333（高潮、地震津波）36（維持管理）411　412（人と人のつながり）

（3）活動の目的
自然環境保全、防災のどの活動をつうじて淀川流域で暮らす方々に対して防災・治水に関心を高め、地域住民と連携して活動を行う協力体制を整える

### 1.2　最終的な目標

自然環境を保全しながらも安全安心に暮らせるような天災から身を守れる住民環境づくりや情報発信

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 防災活動を通じて淀川流域で暮らす方々に対して防災・治水に関心を高める | 防災活動 | 淀川流域のコミュニティに参加し、防災・治水の啓発活動を行う | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | 清掃活動 | 淀川の歴史、文化や自然環境についての情報発信、自然観察会や河川清掃活動を行う | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | 環境保全 | 観察会や河川清掃活動を行う | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 地域住民と連携して活動を行う協力体制を整える | 防災活動 | 地域住民に対しての防災活動、ハザードマップ作成等を行い水防意識を高める活動を行う | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | | 環境保全・清掃活動 | 川や河川敷、流域地域の環境保全活動を行い、現地に行き水害・防災への理解をすすめていく | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 地域に残されている自然環境を保全しながらも安全安心に暮らせるような天災から身を守れる住民環境づくりや情報発信 | 環境保全・清掃活動 | 自治体や自治会と連携した河川清掃の実施 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | 防災活動・自然環境保全 | 地域住民の交流を通じてコミュニティの活動域を広げていく | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |

## 2. 課題、疑問点、相談したいことなど

シフト制の仕事に従事しており、既存の地域の活動参加や交流機会の時間が取れないことがほとんどである。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 福島 | 福島 | 福島 | 福島 |
| 氏名 | | 兒玉曜子 | 兒玉曜子 | 兒玉曜子 | 兒玉曜子 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 矢倉緑地公園探鳥会 | 新北野再生ヨシ原清掃活動（春季） | 新北野再生ヨシ原清掃活動（秋季） | 西淀川区マイ・タイムライン |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | B環境保全 | B環境保全 | A治水・防災 |
| 活動目的（１００字程度） | | 淀川右岸河口にある矢倉海岸は矢倉緑地公園として整備されており、かつて公害の町であった西淀川区は、自然環境も整い現在様々な野鳥が集まっている。野鳥観察を通してコンクリート護岸のない河川への理解を深める。 | 継続活動（6年目）新北野のヨシ原再生の取組を知ってもらうとともに、清掃活動を通じて、淀川の自然環境に関心をもち、保全に協力していただく | 継続活動（6年目）新北野のヨシ原再生の取組を知ってもらうとともに、清掃活動を通じて、淀川の自然環境に関心をもち、保全に協力していただく | 水害被災現場では住民および高齢者や障がい者も厳しい状況になります。ハザードマップを読み込みタイムラインを作成し避難行動計画をたてる活動を行う |
| 活動内容（１００字程度） | | 大阪市で唯一の自然海岸緑地である矢倉緑地公園は市民憩いの場となっており、生物多様性が観察できる。またコンクリート壁で護岸されてはいないが現地に行き見ることで防災に関しても意識を高めてもらう。 | ・清掃活動<br>・プチまち歩きで、淀川の災害の歴史と現在淀川での施策について説明 | ・清掃活動<br>・プチまち歩きで、淀川の災害の歴史と現在淀川での施策について説明<br>・ヨシ筆作成 | ハザードマップを使用し避難計画作成し、有事の避難ができることを目指す |
| 運営形態 | | 共催 | 協力 | 協力 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | 公益社団法人　大阪自然環境保全協会(共催) | 株式会社フロンティア | 株式会社フロンティア | |
| | 行政機関 | | | | 社会福祉法人　聖綾福祉会 |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月 | | 5月16日 | 6月 | 11月 | 1月 |
| 活動場所(市町村) | | 大阪市西淀川区 | 大阪市淀川区 | 大阪市西淀川区 | 大阪市西淀川区 |
| 活動場所 | | 阪神なんば線福駅～大野川緑陰道～矢倉緑地公園 | 新北野の河川敷ーヨシ原再生エリア | 新北野の河川敷ーヨシ原再生エリア | 大阪市西淀川区姫島 |
| 参加対象者 | | 一般者 | 株式会社フロンティアの社員 | 株式会社フロンティアの社員 | 地域住民および施設スタッフ |
| 定員 | | 20人 | 25人前後 | 25人前後 | 10人 |
| 年間スケジュール | 4月 | 準備、資料作成、実施計画書作成承認、下見 | フロンティア総務担当と日程調整 | | |
| | 5月 | 活動実施、活動報告 | 下見、実施計画書作成承認 | | |
| | 6月 | | 資料作成、物品貸与、活動実施、活動報告 | | |
| | 7月 | | | | |
| | 8月 | | | | |
| | 9月 | | | フロンティア総務担当と日程調整 | |
| | 10月 | | | 下見、実施計画書作成承認 | 下見 |
| | 11月 | | | 資料作成、物品貸与、活動実施、活動報告 | 実施計画書作成・提出・準備、下見 |
| | 12月 | | | | 資料作成・準備、下見 |
| | 1月 | | | | 活動実施、活動報告 |
| | 2月 | 下見（令和7年度） | | | |
| | 3月 | 実施計画書作成・提出、協力者内容説明、下見（令和7年度） | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 1人（後方安全確認） | ３人（物品運搬、後方安全確認、ゴミ袋・軍手等配布） | ３人（物品運搬、後方安全確認、ゴミ袋・軍手等配布） | 1人（マイ・タイムライン作成要員） |
| 広報・募集方法 | | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 | フロンティア総務担当 | フロンティア総務担当 | 地域住民および施設内参加者にチラシ配布、参加案内 |
| 支援要望事項 | | レンジャー事務局→チラシ印刷<br>福島出張所へ情報・資料提供を依頼 | ヨシ笛材料、垂幕、ゴミ袋、軍手、救急箱、ビブス、配布資料印刷 | ヨシ笛材料、垂幕、ゴミ袋、軍手、救急箱、ビブス、配布資料印刷 | レンジャー事務局→配布資料印刷 |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 野外での活動は天候に合わせ休憩等配慮する。特に熱中症には警戒し、屋外での活動は午前中で終了する。感染症対策を整えたうえ実施する。 | 清掃時注意事項の徹底を行う<br>・天候に合わせ休憩等配慮する。特に熱中症には警戒<br>・立入禁止エリア（河岸）<br>・危険物（医療系廃棄物・動物の死骸等）に直接触れない | 清掃時注意事項の徹底を行う<br>・天候に合わせ休憩等配慮する。特に熱中症には警戒<br>・立入禁止エリア（河岸）<br>・危険物（医療系廃棄物・動物の死骸等）に直接触れない | 参加者のコロナ対策、健康確認、マスク着用、消毒 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | 参加者募集・協力スタッフの確保<br>5月でも近年熱中症のリスクあり、中止も視野に入れて計画 | 熱中症のリスクあり、中止も視野に入れて計画 | | 感染症の状況により変更、中止も視野に入れて計画 |
| その他 | | | | | |

| | | |
|---|---|---|
| 出張所 | | 福島 |
| 氏名 | | 兒玉曜子 |
| No. | | 5 |
| 活動名 | | 西淀川区淀川右岸クリーン大作戦 |
| 主たる活動分野 | | D維持管理 |
| 活動目的（１００字程度） | | 恒例の淀川一斉美化作戦での、西淀川区で実施している活動になる |
| 活動内容（１００字程度） | | 西淀川区　淀川右岸の清掃活動を近隣の地域住民の人に参加してもらって実施している。川ゴミの問題について、参加者に理解してもらう |
| 運営形態 | | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | |
| | 行政機関 | 西淀川区役所、西淀川区生涯学習推進区民会議（共催） |
| | 学校関係 | |
| 活動予定月 | | 3月 |
| 活動場所(市町村) | | 大阪市西淀川区 |
| 活動場所 | | JR神戸線橋梁－河川敷－淀川大橋（下流に移動） |
| 参加対象者 | | 一般の人 |
| 定員 | | HIT |
| 年間スケジュール | 4月 | |
| | 5月 | |
| | 6月 | |
| | 7月 | |
| | 8月 | |
| | 9月 | |
| | 10月 | 西淀川区役所・西淀川区生涯学習推進区民会議と打ち合わせ日程調整 |
| | 11月 | 西淀川区役所・西淀川区生涯学習推進区民会議と打ち合わせ |
| | 12月 | チラシ作成 |
| | 1月 | 広報、チラシ配布 |
| | 2月 | 河川敷使用者に協力要請、広報対応、チラシ配布 |
| | 3月 | 活動実施、活動報告 |
| スタッフ（人数・役割） | | レンジャー・川づくりパートナーで１０人以上<br>受付・ゴミ袋他配布・安全監視・回収ゴミとりまとめ |
| 広報・募集方法 | | チラシ（小学校、町内会配布）、西淀川区広報誌掲載 |
| 支援要望事項 | | レンジャー事務局→チラシ印刷、ゴミ袋・軍手、垂幕、拡声器、救急セット、ビブス<br>福島出張所→河川敷当日使用自粛要請、回収ゴミ処理 |
| 水害体験施設の要望 | | |
| 安全対策 | | 開始時に注意事項のパンフ配布して、説明する<br>①河岸に近づかない<br>②軍手をして、火ばさみでゴミの回収をする<br>③危険物（医療器具、動物の死体等）に触らない<br>実際のゴミ回収して移動中は、スタッフが安全監視を行う |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | 参加者募集・協力スタッフの確保 |
| その他 | | |

| 氏名 | 白川　公彦 | 区分 | 河川レンジャー（1期1年目） | 所属 | 福島出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的

（1）活動の背景、きっかけ等
① 防災・減災（自然災害）:近年、集中豪雨などによる水害の危険性が高まっている。地域の子どもたちが水害時に落ち着いて行動し、自らの安全を確保できる力を育てたいと考えている。

② 水辺の安全利用：淀川では水難事故が起きており、川は危険な場所として敬遠されがちである。事故を防ぐために、川の特性や安全な利用方法を学び、着衣泳などを通して危険への備えを身につけ、万一の際に落ち着いて行動できる力を育てたいと考えている。また、地域住民が川に親しみを持ち、川を安全に、安心して利用できるようにするための学びや体験の場を整えたいと考えている。

（2）川の課題と整備計画のつながり
川の課題：淀川の魅力をアピールできていない。水害に遭遇したときの安全確保を考える。
河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：
① 防災・減災　4.3.2　淀川水系における治水・防災対策（4)危機管理体制の構築
② 水辺の安全利用：3.5. 利用　3.5.3. 河川敷　（１）利用　4.5.2. 川らしい利用の促進（４）安全利用のための対策　4.5.3　憩い、安らげる河川の整備（2)水辺の整備

（3）活動の目的
① 防災・減災：自然災害から身を守るための知識と行動力を地域に広める。
② 水辺の安全利用：子どもたちや地域の人が水辺を安全に楽しむためのノウハウを身につけ、淀川の魅力に親しむ機会を増やす。また、水辺の利用マナー向上を図る。

### 1.2　最終的な目標

① 防災・減災（自然災害）
自然災害から自分の身を守るための知識と行動力を身につけられるよう、地域の学校に防災教育を定着させる。
② 水辺の安全利用
安全利用の課題（危険箇所、利用ルールなど）を行政へフィードバックし、改善につなげる。

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | ① 防災・減災（自然災害）<br>地域住民が「自分の身は自分で守る」意識を持ち、防災知識を身につける | 防災学習（出前授業） | 小学生を対象に、防災について考えてもらえる機会をつくる。 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | ② 水辺の安全利用（水難事故防止）<br>水辺の安全利用指導を行い、安全利用の知識を広め、事故防止の基本行動を身につけてもらう | 水辺の安全利用（着衣泳出前授業） | 大阪市内の小学校での防災出前授業を行い、着衣泳、ライフジャケット着用体験を行う。 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | ② 水辺の安全利用（水難事故防止）<br>淀川の自然に親しんでもらう | 干潟の観察会 | 干潟の生物観察を通じて、淀川に親しんでもらう。 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | ① 防災・減災（自然災害）<br>学校と連携し、年間を通し防災教育が出来るようにカリキュラム作りのアドバイスをする | 活動名未定 | 出前授業での研修。校長会での説明、教員に対する研修を行う。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | ② 水辺の安全利用（水難事故防止）<br>教員が自ら着衣泳の授業を実施していけるように導く | 活動名未定 | 導線や川辺の環境について参加者の意見を集約する。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | ②水辺の安全利用（利用マナー向上）<br>河川清掃活動等の取り組みを通じて利用者への啓発を行い、河川の利用マナー向上を図る。 | 一斉美化アクション | 地域住民・市民団体・行政と連携して河川清掃を行う。西淀川区、東淀川区を予定。 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | ① 防災・減災（自然災害）<br>地域住民や行政と課題を共有し、防災活動を継続できる体制を構築する。 | 活動名未定 | ・地域や学校が主体となった防災訓練や防災学習<br>・水害への備えを充実させる活動や意見交換を行う活動 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | ② 水辺の安全利用（水難事故防止）<br>住民の意見をまとめ安全利用の課題（危険箇所、利用ルールなど）に対して改善案をまとめる | 活動名未定 | ・危険箇所の見える化（マップづくり）<br>・利用ルールの改善案のとりまとめ・意見交換会<br>・地域や学校が主体となった自然観察会や水辺の安全利用学習会 | | | | ⇒ | ⇒ |

**2.課題、疑問点、相談したいことなど**

| |
|---|
| |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 福島 | 福島 | 福島 | 福島 |
| 氏名 | | 白川公彦 | 白川公彦 | 白川公彦 | 白川公彦 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 水辺の安全利用 | 防災学習 | 一斉美化アクション | 一斉美化アクション |
| 主たる活動分野 | | C河川利用 | A治水・防災 | D維持管理 | D維持管理 |
| 活動目的（１００字程度） | | 自分の身を守るため、水辺の危険を知りリスクを下げる、万が一事故に遭遇したとき、対処する能力を身に付ける | 大雨による水害時に適切な行動がとれるために、そのための知識を伝え、自らのこととしてそのときの行動を考えてもらう。 | ゴミ問題について考えてもらう機会とするとともに川の美化に貢献してもらう。また、淀川を近くでみてもらう。 | ゴミ問題について考えてもらう機会とするとともに川の美化に貢献してもらう。また、淀川を近くでみてもらう。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 小学生を対象に水辺の安全利用指導を行う | 流域から見た地域の危険性、過去の水害、歴史、ハザードマップの見方、マイタイムライン作成 | 淀川右岸クリーン作戦の一つとして、菅原城北大橋前の河川敷周辺のごみ収集を行う。 | 淀川右岸クリーン作戦の一つとして、塚本河川敷周辺のごみ収集を行う。 |
| 運営形態 | | 共催 | 共催 | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | | | |
| | 行政機関 | | | 東淀川区、淀川河川事務所 | 西淀川区、淀川河川事務所 |
| | 学校関係 | 小学校 | 小学校 | | |
| 活動予定月 | | 7月 | 年間 | 2月 | 2月 |
| 活動場所(市町村) | | 大阪市 | 大阪市 | 大阪市東淀川区 | 大阪市西淀川区 |
| 活動場所 | | 小学校 | 小学校 | 菅原城北大橋周辺 | 塚本河川敷周辺 |
| 参加対象者 | | 小学生 | 小学生 | 地域住民 | 地域住民 |
| 定員 | | | | 特になし | 特になし |
| 年間スケジュール | 4月 | 校長会での説明 | 校長会での説明 | | |
| | 5月 | 実施可否の回答をもらう | 小学校に問合せ、実施可否の検討 | | |
| | 6月 | 学習予定日の調整と学習内容の決定 | 準備、実施 | | |
| | 7月 | 準備、実施 | | | |
| | 8月 | | | | |
| | 9月 | | | | |
| | 10月 | | | | |
| | 11月 | | | 東淀川区、淀川河川事務所 | 西淀川区、淀川河川事務所 |
| | 12月 | | | チラシ、広報等に掲載依頼 | チラシ、広報等に掲載依頼 |
| | 1月 | | | 準備、参加者数確認 | 準備、参加者数確認 |
| | 2月 | | | 実施 | 実施 |
| | 3月 | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 着衣水泳を実施する場合、PFD（ライフジャケット）の着用補助　1名 | | 安全確保、支援に2名以上 | 安全確保、支援に2名以上 |
| 広報・募集方法 | | 学校授業として行う | 校長会での説明 | 自治会、およびチラシ配布など | 自治会、およびチラシ配布など |
| 支援要望事項 | | PFDなど用具の借用、安全利用に関する学習内容の支援 | マイタイムライン作成資料の提供など | 火ばち、手袋、ごみ袋の確保、ごみ回収 | 火ばち、手袋、ごみ袋の確保、ごみ回収 |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 児童への安全行動の説明、児童の監視 | | 下見や参加者に対する事前、当日の注意喚起を行い、実施、終了後にも安全確認を行う | 下見や参加者に対する事前、当日の注意喚起を行い、実施、終了後にも安全確認を行う |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| | | |
|---|---|---|
| 出張所 | | 福島 |
| 氏名 | | 白川公彦 |
| No. | | 5 |
| 活動名 | | 干潟の観察会 |
| 主たる活動分野 | | C河川利用 |
| 活動目的（１００字程度） | | 淀川に親しんでもらい、親水性や安全性などの意見集約を行う。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 淀川干潟での観察会を行い、川に親しんでもらいながら、安全確保の留意点などを学習してもらう。 |
| 運営形態 | | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | |
| | 行政機関 | |
| | 学校関係 | |
| 活動予定月 | | 9月 |
| 活動場所(市町村) | | |
| 活動場所 | | 豊里大橋～淀川右岸（西淀川区） |
| 参加対象者 | | |
| 定員 | | |
| 年間スケジュール | 4月 | |
| | 5月 | |
| | 6月 | |
| | 7月 | |
| | 8月 | |
| | 9月 | |
| | 10月 | |
| | 11月 | |
| | 12月 | |
| | 1月 | |
| | 2月 | |
| | 3月 | |
| スタッフ（人数・役割） | | |
| 広報・募集方法 | | |
| 支援要望事項 | | |
| 水害体験施設の要望 | | |
| 安全対策 | | |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | |
| その他 | | |

| 氏名 | 西畑　緑 | 区分 | 河川レンジャー(試行期間) | 所属 | 福島出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的

（1）活動の背景、きっかけ等

**治水・防災**：西淀川は海抜ゼロメートル地帯で浸水したことがあり、台風21号では停電・家屋被害・内水氾濫等も発生。外水氾濫への意識が強い一方、内水氾濫の危険認識が薄い面があり、防災・減災意識の向上につながる活動を行いたい。
**環境保全**：淀川には、希少生物であるハクセンシオマネキが生息し、ミサゴも毎年営巣・子育て（今年は2羽の成長が見られる）。生き物が棲みやすい環境づくりと、その変化の「見える化」がゴミ減少にもつながる可能性がある。
**維持管理・河川利用**：最寄り駅から遠く、駐車場がないなど条件が厳しく、個人の徒歩・自転車清掃では回収に限界がある。バーベキュー・たき火後の放置や不法投棄が目立ち、美化の重要性を伝えつつ継続的な対策が必要。現地にはゴミ散乱が見られ、利用マナー（釣り等）にも課題がある。河川敷では多様な利用者が見られ、一部で不法投棄もあるため、周知・啓発によるマナー向上が必要。

（2）川の課題と整備計画のつながり

川の課題：福町には河口付近の魅力を知ってもらうこと。福町には阪神電車の橋脚が3.8m上がることにより、河川敷を魅力的なところに変えていきたい。川の魅力を踏まえて人と人をつなげ、海抜ゼロメートル地帯の防災、減災の意識も高めて安全・安心なまちづくりに尽力したい。

河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：
①現状の課題　3.1.人と川のつながり、3.2.河川環境　3.2.7.景観、3.3.治水、防災　3.3.1. 洪水　3.3.2.高潮　3.3.3.地震・津波　3.6.維持管理
②河川整備の方針と具体的な整備内容　4.1.人と川とのつながり　4.1.1.人と川とのつながりの基本的な考え　4.1.2.日常からの人と川とのつながりの構築　4.2.2.多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承　(3)良好な景観の保全と再生　4.3.1.淀川水系における治水・防災対策の基本的な考え方　4.3.2.淀川水系における治水防災対策（４）危機管理体制の構築　4.7. 関連施策　4.7.1.淀川河川敷公園

（3）活動の目的
我がまち西淀川区に流れる淀川をもっと知ってもらう
**治水・防災**：水害リスクを正しく理解し、適切な備えと避難行動につなげる。
**環境保全**：淀川下流域の生き物観察などを通じて、川の環境を守る意識を育む。
**維持管理・河川利用**：河川敷の清掃など、美化活動を関係者と連携して継続実施する体制を整える。在住外国人を含む多様な利用者にも参加・周知を行い、河川利用マナーの向上につなげる。

### 1.2　最終的な目標

淀川の魅力を知ってもらい、生命が集う持続可能な水辺をつくること。
そして、海抜ゼロメートル地帯に暮らす私たちが“正しく怖がる”防災・減災の意識を広めていくこと。

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | ２期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 淀川をもっと知ってもらう。<br>身近にいる生き物を見て、淀川の魅力を感じてもらう事により、もっときれいな川にしようと思ってもらう。<br>防災意識を正しく持ってもらう。 | 汽水域　生き物発見隊　生き物にとって有害なゴミをゼロにする作戦 | どんな生き物が住んでいるか川の観察会 | ⇒ | ⇒ | | | |
| | | 海抜ゼロメートルでも安心して生活するために | マイ・タイムライン作成体験と浸水歩行体験 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | 淀川大堰ってなに？川の施設を見てみよう | 今の淀川がどれだけ整備されているか、川の設備を知る見学会を通じて学ぶ活動 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | 河川敷をきれいにしよう | 河川敷の美化活動を通して、河川利用マナーアップを図る活動 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

## 2. 課題、疑問点、相談したいことなど

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 福島 | 福島 | 福島 | 福島 |
| 氏名 | | 西畑　緑 | 西畑　緑 | 西畑　緑 | 西畑　緑 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 汽水域　生き物発見隊　生き物にとって有害なゴミをゼロにする作戦 | 海抜ゼロメートルでも安心して生活するために | 淀川大堰ってなに？川の施設を見てみよう | 河川敷をきれいにしよう |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | A治水・防災 | A治水・防災 | D維持管理 |
| 活動目的（１００字程度） | | 身近な川にどんな生き物が住んでいてまたどんな環境なのか知ってもらい観察後に私たち人間が出したゴミを拾って少しでも生き物にとって住みやすい環境作りをする | 2018年9月の台風では淀川、神崎川の防潮堤が閉鎖しました。豪雨により浸水した地域もある中、どうしたら身を守れるか？を一緒に考えていく活動をする | 淀川には淀川大堰というものがあるが、その役割はあまり住民には知られていない。街を水害や渇水から守り、生活を支えるインフラを見学することにより今後のまちの環境保全や防災へ繋げていきたい | 地域のみなさんと河川敷の美化活動を通してのコミュニティをつくる。すこしイベント要素を取り入れた美化活動です |
| 活動内容（１００字程度） | | 生き物の観察後、ゴミを拾ってどんなゴミが漂着してるのかも一緒にまとめて観察してみる。今後の希少な生き物も毎年記録して残してみたい | 浸水歩行を体験してもらい、もしも、浸水した時にどうするのか学んでもらいたい。また身近な生活圏内を想定して豪雨がきたらどうする？地域密着型の避難所や避難ビルを紹介しながらのマイタイムラインを実施していく | 川の施設を見学し下流域に住んでいるみんなの街と淀川が身近にある事を知ってもらい親しみを持ってもらう | 10月31日はハロウィンなのでその時期に、動きやすい仮装で楽しく美化活動。毎年恒例にしていけば。またこの地域は福駅が新しくなりまちの活性化を図ってるので相乗効果が見込めそう |
| 運営形態 | | 主催 | | | |
| 連携予定 | 市民団体等 | | | | |
| | 行政機関 | | | | |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月 | | 6月～７月中旬 | 1月 | 10月か11月 | 10月 |
| 活動場所(市町村) | | 西淀川区 | 西淀川区 | 都島区 | 西淀川区 |
| 活動場所 | | 西島～矢倉緑地公園まで | 未定 | 淀川大堰の見学会異文化交流もかねて | 福から西島までの淀川右岸　河川敷 |
| 参加対象者 | | | | 淀川区・西淀川区民(１０人ほど) | |
| 定員 | | | | | |
| 年間スケジュール | 4月 | 下見、スタッフ決定 | | | |
| | 5月 | 広報開始 | | | |
| | 6月 | 下見、活動まとめ、準備 | | | |
| | 7月 | 実施 | | | 下見、広報活動 |
| | 8月 | 総括 | | 下見と広報活動 | 募集 |
| | 9月 | | | 募集 | 準備 |
| | 10月 | | | | 実施 |
| | 11月 | | 下見　スタッフ決定　広報開始 | 実施 | 総括 |
| | 12月 | | 活動まとめ　準備 | 総括 | |
| | 1月 | | 実施 | | |
| | 2月 | | 総括 | | |
| | 3月 | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 波戸R 資料作成補助、安全管理 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 広報・募集方法 | | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 支援要望事項 | | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| 氏名 | 伊藤　茂 | 区分 河川レンジャー（特例再任 2期2年目） | 所属 | 毛馬出張所 |
|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画・河川公園整備計画との関連をふまえて記載

地域住民に淀川の四季、自然や美しさ楽しさを再発見させる。また防災や危機管理などの意識づけや水辺の安全教育も子どもから保護者へまたは大人から子どもへ自然体験活動を通じて学んでもらいます。そして、その自然体験活動を通じて地域住民の川に対する関心を深め防災及び川の環境についても共通認識を向上させる。

### 1.2　最終的な目標

鳥飼地区（摂津市）地域住民を巻き込んだ淀川の自然環境の保全と地域防災の現状と近未来への希望や防災ステーション・船着き場などの活用など住民へ周知する。

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | ２期 | | 特例１期 | | 特例２期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 | ５年目 | ６年目 | ７年目 | ８年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 遊びや体験を通じて淀川の自然を学ぶ | 淀川＆大川の生き物調査 | 淀川や大川の生き物の調査や観察会の実施 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | 鮎の遡上と淀川大堰魚道見学 | 魚道を見学し鮎の遡上を見る | | | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | バッタのオリンピック | バッタを捕まえそのバッタを飛ばして距離を競う競技 | | ⇒ | | ⇒ | | | | | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 自然体験活動を通じて地域住民が防災の共通認識を高め地域団体や活動団体などの連携を高め相互協力体制の構築を目指す。 | 鳥飼ワンドの外来種植物駆除 | ワンドの再生をしましたがすぐに外来種の植物にてワンドの姿が変貌をしかけています。元のワンドに戻すべく近隣団体と一緒に駆除をします。 | | | | | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | あそ防災 | 小学生と遊びながら防災と淀川の歴史を結び学ぶ活動 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 水辺の活用や保全、再生など身近な自然を楽しめる川にする為、川と町が一体となったワンド整備を実現できるよう地域住民と行政のパイプ役になる。 | わいわいがやがや祭り出店 | ワイワイガヤガヤ祭りに参加し摂津市及び協力団体や参加者に淀川の魅力の再発見をしてもらい未来の淀川を考え発信し協力をしてもらう | | | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | | | | | | | | | | | |

### 2. 課題、疑問点、相談したいことなど

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 毛馬 | 毛馬 | 毛馬 | 毛馬 |
| 氏名 | | 伊藤　茂 | 伊藤　茂 | 伊藤　茂 | 伊藤　茂 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 淀川大堰の魚道見学 | 鳥飼ワンド整備 | 大川の生き物観察会 | 都島区民祭り出店 |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | B環境保全 | C河川利用 | F川づくり・人づくり |
| 活動目的（１００字程度） | | 魚道を見せて環境保全のすばらしさと実際の魚の遡上を見てもらう。 | 本来の生物多様なワンドに戻す為、摂津市や近隣団体も巻き込み活動する。 | 淀川・大川の自然を体験する | 川の美化活動の啓発 |
| 活動内容（１００字程度） | | 大堰の歴史となぜ魚道が必要なのか教え実際に見てもらう。 | 繁茂するワンドの外来水草の駆除をして生物多様性のワンドを育てる。 | 大川の生き物を一緒に捕り観察する | 開催地のすぐ近くで捕れる生き物の展示 |
| 運営形態 | | 主催 | 主催 | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | | | |
| | 行政機関 | | 摂津市 | | |
| | 学校関係 | | 成蹊大学　関西大学　近隣高校など | 桜ノ宮ビーチ（大阪ふれあいの水辺） | 桜宮公園 |
| 活動予定月 | | 4月25日 | 4月～9月 | 5月10日 | 9月26日 |
| 活動場所(市町村) | | 大阪市北区（淀川大堰） | 摂津市 | 大阪市都島区 | 大阪市都島区 |
| 活動場所 | | 淀川大堰 | 鳥飼下地区　ワンド | 大阪ふれあいの水辺 | 毛馬桜宮公園 |
| 参加対象者 | | 小学校3年生以上保護者同伴 | 地域住民　近隣大学生 | 地域住民 | 地域住民 |
| 定員 | | | | 下見 | |
| 年間スケジュール | 4月 | 下見・実施 | 下見・実施 | 実施 | |
| | 5月 | | 下見・実施 | | |
| | 6月 | | 下見・実施 | | |
| | 7月 | | 下見・実施 | | 下見 |
| | 8月 | | 下見 | | 実施 |
| | 9月 | | 実施 | | |
| | 10月 | | | | |
| | 11月 | | | | |
| | 12月 | | | | |
| | 1月 | | | | |
| | 2月 | | | | |
| | 3月 | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 未定 | 未定 | | |
| 広報・募集方法 | | チラシ配布 | チラシ配布　広報活動 | チラシ配布・地域団体への広報 | 区民祭りなので区役所が集めてくれる |
| 支援要望事項 | | | | | |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | | | | |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | ワンド整備はマンパワーも必要だし１回では完了しないので4-5回開催しないといけない。人員の確保が課題。 | | |
| その他 | | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 毛馬 | 毛馬 | 毛馬 |
| 氏名 | | 伊藤　茂 | 伊藤　茂 | 伊藤　茂 |
| No. | | 5 | 6 | 7 |
| 活動名 | | バッタオリンピック | あそ防災 | 淀川・大川クリーン大作戦2027 |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | A治水・防災 | B環境保全 |
| 活動目的（１００字程度） | | バッタを捕まえ飛ばして遊ぶ事を体験する。また河川にいる生き物に興味をもってもらう。 | 遊びながら防災を学ぶ | 地域のみんなで淀川流域を一斉にきれいにする |
| 活動内容（１００字程度） | | バッタを捕まえ飛ばした距離を競う | 防災の施設見学と防災知識の向上 | 河川をきれいにする |
| 運営形態 | | | | |
| 連携予定 | 市民団体等 | | | |
| | 行政機関 | | | |
| | 学校関係 | | | |
| 活動予定月 | | 10月17日 | 11月21日 | 3月6日 |
| 活動場所(市町村) | | 摂津市 | 大阪市都島区 | 大阪市都島区 |
| 活動場所 | | 鳥飼下地区　ワンド | 毛馬出張所 | 毛馬出張所管内 |
| 参加対象者 | | 地域住民 | 地域住民・近隣小学校 | 地域住民 |
| 定員 | | | | |
| 年間スケジュール | 4月 | | | |
| | 5月 | | | |
| | 6月 | | | |
| | 7月 | | | |
| | 8月 | 下見 | 下見・打合せ | |
| | 9月 | 実施 | 下見・打合せ | |
| | 10月 | | 実施 | 打合せ |
| | 11月 | | | 下見・打合せ・広報誌広告掲載 |
| | 12月 | | | 下見 |
| | 1月 | | | 実施 |
| | 2月 | | | |
| | 3月 | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | | | |
| 広報・募集方法 | | 近隣小学校へのチラシ配布 | 近隣小学校へのチラシ配布 | チラシ配布・都島区の広報の告知 |
| 支援要望事項 | | 河川敷堤防の草刈りの予定を事前に連絡がほしい。 | | ゴミ収集場所の相談 |
| 水害体験施設の要望 | | | | |
| 安全対策 | | | | |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | |
| その他 | | | | |

| 氏名 | 波戸　睦 | 区分 河川レンジャー（1期1年目） | 所属 | 毛馬出張所 |
|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画・河川公園整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等
毛馬管内は都市部という立地ではあるが淀川を中心とした豊かな自然と多様な生態系が存在している。近年、外来種の増加もあって固有種を含む在来種の減少、抽水性植物から陸地植物への遷移等、長年育まれてきた生態系に変化が生じ良好な河川環境が減退していることを観察会の実施を通して実感している。また、子供達が淀川の自然に触れる機会が少ないことも感じており淀川と触れる機会を増やし、ワンド（淀川に）ふれる機会提供していきたいと考えています。
（2）川の課題と整備計画のつながり
　川の課題：淀川のワンドはかつて多様な生態系を育む重要な環境でしたが、生物多様性の低下や水陸移行帯の減少が課題。また、地域住民が環境の変化に気づいていないことも課題。
ワンドが貴重な自然環境であることを地域の共通認識としてもらうため、外来種の駆除や在来種の生息環境の維持・拡大を図っていきたい。そのためにはより多くの人々にワンドに関心を持って頂き、直接触れて意識を持ってもらえるよう地域住民の方々と一緒に活動を進めていく。
　河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：
**・4.1：人と川のつながり**　・4.1.1　人と川のつながりの基本的な考え方　・4.1.2　日常から人と川野つながりの構築（１）人と川をつなぐ　**4.2 河川環境**:4.2.1河川環境の保全と再生の基本的な考え方　4.2.2多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承（１）淀川水系を代表する希少生物等の生物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生（２）外来種対策の推進 4.2.3河川の連続性の確保（１）水辺や河原の保全・再生 4.2.4川本来のダイナミズムの再生（１）水位変動リズムの回復
**・4.3 治水・防災**： 4.3.2. 淀川水系における治水・防災対策（４）危機管理体制の構築
（3）活動の目的：淀川のワンドの自然環境を守り、外来種の駆除や在来種の保護を進めるとともに、地域住民と協力して多くの人がワンド（淀川）に関心を持ち、直接ふれる機会を増やすことを目的とします。

### 1.2　最終的な目標

ワンドの保全を地域住民が主体的に取り組み、多くの人に淀川の自然や多様な生態系を知ってもらう。また、ワンドから淀川の自然を学び、楽しみ、身近に
感じられる川づくりを進める。

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 毛馬管内のワンド（鳥飼）の活動を通して淀川の環境保全や危険エリアの共有及び生態系について理解を深め、一緒に取り組んでもらえる協力者を見つけることを目指します。 | ワンド生き物観察会　　春季　ワイガヤまつり(鳥飼ワンドでの生物調査) | ・子どもを対象にワンドの生き物を観察する。<br>・投網・たも網による魚類調査＆外来植物の調査<br>⇒外来生物の駆除 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | ワンドクリーンアップ大作戦　冬季（鳥飼ワンド） | ワンド定点観察(鳥飼ワンド）①定期的な写真撮影（できれば１回/月）②季節ごとの生物調査 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | 水辺の安全学習（鳥飼周辺小学校など） | ・子供や住民を対象に水辺の危険を体験的に学ぶ場を作る。 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | 防災学習（自然災害への備え） | ・洪水時のリスク共有　地域でハザードマップや避難経路を共有し安心感を高める。 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | | |
| | | ワンド定点観察(鳥飼ワンド）<br>⇒貴重な自然環境を守り、外来種の駆除や在来種の保護を進めるながら現状の記録とする | ・ワンドの現状を記録、観察し課題を抽出する<br>①定期的な写真撮影（できれば１回/月）　②季節ごとの生物調査ワンドの目的を地域住民と共有するための記録 | | ⇒ | ⇒ | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 毛馬管内のワンド（鳥飼）での課題を共有し解決するための協働のチームづくり<br>・地域住民と連携を強める　⇒<br>川づくりパートナーとなってもらい、一緒に企画・運営を行ってもらう。　・行政との連携　⇒ワイガヤまつり、クリーンアップ作戦地域住民と行政が企画を連携して実施 | ワンド生き物観察会　春季　ワイガヤまつり(鳥飼ワンドでの生物調査)<br>⇒地域住民の定点観察への参加 | ・子どもを対象にワンドの生き物を観察する。<br>・投網・たも網による魚類調査＆外来植物の調査<br>⇒外来生物の駆除 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ワンドクリーンアップ大作戦　冬季（鳥飼ワンド、赤川ワンド） | 水路、入江でのゴミ収集・外来植物の除去によりワンド保全（危険エリアの把握）、景観の向上及び生態系の保全を推進。 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ワンド定点観察(鳥飼ワンド)<br>地域住民と協力して多くの人がワンドに関心を持ち、直接ふれる機会を増やす<br>⇒季節ごとの生物調査を地域住民をスタッフとしたチームで運営 | ・ワンドの現状を記録、観察し課題を抽出する<br>地域住民が環境の変化に気づき、ワンドが貴重な自然環境であることを共通認識としてもらう<br>直接触れて意識を持ってもらえるよう活動 | | | | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | ワンドでの課題を共有し解決するための地域での仕組みづくり<br>・チームでの課題解決の為の企画を立案し実施する　⇒<br>チーム（地域住民、行政、河川レンジャー） | ワンド生き物観察会　春、秋季(鳥飼ワンド・赤川ワンド) | ・子どもを対象にワンドの生き物を観察する。<br>・投網・たも網による魚類調査＆外来植物の調査 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ワンドクリーンアップ大作戦　冬季（鳥飼ワンド・赤川ワンド） | 水路、入江でのゴミ収集・外来植物の除去により水路保全（危険エリアの把握）、景観の向上及び生態系の保全を推進。 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ワンド定点観察(鳥飼ワンド)<br>地域住民と協力して多くの人がワンドに関心を持ち、直接ふれる機会を増やす⇒季節ごとの生物調査を地域住民をスタッフとしたチームで運営 | ・ワンドの現状を記録、観察し課題を抽出する。チーム内で観察結果を下に対策を検討し実施する。 | | | | ⇒ | ⇒ |

**2. 課題、疑問点、相談したいことなど**

| | |
|---|---|
| 課題 | ・毛馬管内ワンド、本年度は鳥飼ワンドに軸足を起きながら出来得る限り赤川ワンドにも足を運び状況を確認しながらワンドの改善を図りたい<br><br>⇒活動としてワンド維持や生態系についての指導を受けて活動していきたい |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 毛馬 | 毛馬 | 毛馬 | 毛馬 |
| 氏名 | | 波戸　睦 | 波戸　睦 | 波戸　睦 | 波戸　睦 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 摂津市　淀川わいわいガヤガヤ祭　出展 | 鳥飼ワンド生き物観察会 | 鳥飼ワンド、赤川ワンド　定期モニタリング | 鳥飼ワンドクリーンアップ作戦 |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | B環境保全 | D維持管理 | D維持管理 |
| 活動目的（１００字程度） | | 淀川わいわいガヤガヤ祭出展し鳥飼ワンドや淀川の水生生物を知らない子どもたちが、生きものに接して親しむ体験をすることで改めて自分が住んでいる地域（ワンドや淀川）に付いて身近に考えられるきっかけを作る。 | 初夏のワンド環境の定点調査の実施。地域住民と一緒に鳥飼ワンドの水生生物の調査、観察会を実施する。子どもたちには観察会を通して、ワンドの重要性や生きものに接して地域（ワンドや淀川）に付いて身近に考えられるきっかけを作る。 | ワンドの状況を記録・観察し、課題を抽出することで、生態系の変化や外来種の影響を把握し、保全活動や対策に役立てるため。また、地域住民や関係者がワンドの環境に関心を持ち、継続的な保全活動につなげるため。 | 鳥飼ワンド周辺のでの一斉美化アクションの実施。河川美化、マナー向上　環境の保全を図る |
| 活動内容（１００字程度） | | 小学生と保護者対象に、鳥飼ワンドの生きもので探しをガサガサやモンドリで探して捕獲し観察する。また、ワンドに生息する理由や種類から、ワンドや淀川の環境を知り、考える。 | 小学生と保護者対象に、鳥飼ワンドの生きもので探しをガサガサやモンドリで探して捕獲し観察する。また、ワンドに生息する理由や種類から、ワンドや淀川の環境を知り、考える。 | 出来れば毎月の定点観察（写真・基準生物の観察）を基本としたいが、シーズンごと4回/年の実施 | ワンド周辺の清掃活動を実施することでワンドを守る意識を共有する |
| 運営形態 | | 協力 | 主催 | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | | | |
| | 行政機関 | | | | |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月 | | 5月 | 7月 | 4月、7月、10月、1月 | 2月 |
| 活動場所(市町村) | | 摂津市 | 摂津市 | 摂津市、大阪市 | |
| 活動場所 | | 鳥飼ワンド | 鳥飼ワンド | 鳥飼ワンド、赤川ワンド | 鳥飼ワンド |
| 参加対象者 | | 摂津市及び市内住民等（対象小学生と保護者） | 淀川沿いの地域及び市内住民等（対象小学生と保護者） | | |
| 定員 | | 20名 | 20名 | | 50人 |
| 年間スケジュール | 4月 | 下見 | | 実施 | |
| | 5月 | 実施 | | | |
| | 6月 | | 下見 | | |
| | 7月 | | 実施 | 実施 | |
| | 8月 | | | | |
| | 9月 | | | | |
| | 10月 | | | 実施 | |
| | 11月 | | | | |
| | 12月 | | | | |
| | 1月 | | | 実施 | 下見 |
| | 2月 | | | | 実施 |
| | 3月 | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 広報・募集方法 | | | | | |
| 支援要望事項 | | 貸与品の貸し出し | 貸与品の貸し出し | 貸与品の貸し出し | 貸与品の貸し出し |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| 氏名 | 道場　明子 | 区分 | 河川レンジャー（特例再任 1期2年目） | 所属 | 枚方出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

## 1．活動の目的・目標

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画・河川公園整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等
　淀川河川敷において、自転車の高速走行や歩行者との接触など、安全面に関する不安や迷惑行為の声が聞かれる一方で、自転車専用のサイクリングロードであると誤認して利用している事例も見受けられる。また、令和8年4月から自転車への青切符制度が導入される事により、緊急用河川敷道路を含む河川敷においても、安全な走行や利用ルールを改めて確認する必要性が高まっている。
（2）川の課題と整備計画のつながり
　川の課題：自転車と歩行者の安全な利用
　河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：【現状課題】3.5利用　3.5.3河川敷（1）利用
【河川整備の方針と具体的な整備内容】4.5利用　4.5.3憩い、安らげる河川の整備（1）憩い、安らげる河川の整備　（5）迷惑行為の是正
（3）活動の目的
　淀川河川敷における自転車と歩行者の安全で快適な利用を実現するため、河川レンジャーとして現場に立ち、地域住民・河川利用者の声を丁寧に収集し、河川管理者と共有・協働することで、一方的な規制ではなく、利用者自身が安全な使い方を考え、守り続けられる河川利用の仕組みづくりを目指す。

### 1.2　最終的な目標

　河川利用者・地域住民・河川管理者が意見を共有できる場をつくり、自転車と歩行者が互いに配慮しながら利用できる環境を整えることで、利用者自身が安全な河川の使い方を考え、実践し、その行動が継続される河川利用の仕組みを定着させる。

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | | 特例1期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 6年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 自転車歩行者意見聴取や、防災イベント、こどもまつり、自然観察会等を通じて、地域住民や河川利用者から河川敷の利用状況や自転車・歩行者の安全に関する意識、課題について直接意見を聴取する。あわせて、河川利用マナーや安全な使い方に関する情報提供を行い、次の段階である協働した取組につながる基礎的な土台をつくる。 | 自転車歩行者意見聴取 | 利用者に意見聴取をアンケート形式で行う。また、自転車マナーの向上に向け協力団体を探す。 | | | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | 守口市こどもまつり | 水難事故防止の為、来場者にライフジャケット着用や・水辺の安全（助ける方法・助かる方法）等を伝える | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | バッタのオリンピック | 河川敷でバッタを採集し、各自講師指導のもと同定を行い、バッタを種類性別毎にスタート台から飛ばす。飛距離と飛翔時間を計測。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | 寝屋川市立図書館　防災講座 | 参加者が今自分にできる事をハザードマップ等をもとに考える座学とワークショップ。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | Step1で得られた意見を整理し、ヒヤリハットマップの作成・更新等により、自転車と歩行者の安全に関する課題を可視化する。河川レンジャーと管理者が協働して課題を共有し、改善に向けた検討を行うことで、意見交換やルール提案につながる基盤を整える。 | （ヒヤリハットマップの作成・更新） | 実施した意見聴取を元に、ヒヤリハットマップの作成・更新を行う。（毛馬・枚方管内） | | | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | （ミニ意見交換会） | 作成したヒヤリハットマップをもとに河川管理者と情報共有・意見交換を行う。「すぐ対応できるものと難しいもの」を整理し、注意喚起や周知で対応可能な内容を抽出する。 | | | | | | | ⇒ |
| | | 淀川さんぽ | 太子橋地区～八雲地区迄を歴史文化や自然観察の視点で巡りながら、河川敷利用におけるヒヤリハットを参加者と共有・記録し、ヒヤリハットマップ作成に向けた実証的な情報収集を行う。 | | | | | | | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 河川利用者・地域住民・管理者が意見を共有できる場をつくり、利用者自身が安全な使い方を考え、守り続けられる河川利用の仕組みを定着させる。 | 意見交換会 | 河川利用者・地域住民・管理者が集まり、意見交換会で体験と課題を共有。利用者自身が安全な使い方を考え、守り続けられる河川利用の仕組みを地域に定着させる。 | | | | | | | ⇒ |
| | | | | | | | | | | |

## 2. 課題、疑問点、相談したいことなど

河川公園の掲示板にQRをはって、意見聴取で得たヒヤリハット情報や、利用ルールに関するものを告知したい。また、情報をレンジャーからも集約したい。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 | 枚方 | 枚方 | 枚方 |
| 氏名 | | 道場　明子 | 道場　明子 | 道場　明子 | 道場　明子 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 自転車と歩行者に関する意見聴取 | 守口市こどもまつり | バッタのオリンピック | 淀川さんぽ |
| 主たる活動分野 | | C河川利用 | C河川利用 | B環境保全 | C河川利用 |
| 活動目的（１００字程度） | | 自転車マナー向上 | 水難事故防止の啓発 | 河川公園を利用し、河川敷に生息するバッタを通して、現状の環境や自然を体験してもらい、環境保全の大切さを考えてもらう。 | 自転車マナー向上 |
| 活動内容（１００字程度） | | 自転車の利用者、通行人に、ヒヤリハットした場所と事柄を聴取する。 | 水難事故防止の為、来場者にライフジャケット着用や・水辺の安全（助ける方法・助かる方法）等を伝える | 河川敷でバッタを採集し、各自講師指導のもと同定を行い、バッタを種類性別毎にスタート台から飛ばす。飛距離と飛翔時間を計測。優秀者には、金、銀、銅メダルの表彰 | 太子橋地区から八雲地区までを歴史文化や自然観察の視点で巡りながら、河川敷利用におけるヒヤリハットを参加者と共有・記録し、ヒヤリハットマップ作成に向けた実証的な情報収集を行う。 |
| 運営形態 | | 主催 | 共催 | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | 守口市こどもまつり実行委員会 | | |
| | 行政機関 | | 守口市（コミュニティ推進課） | | |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月 | | 6月・9月・11月・1月 | 5月17日 | 10月 | 12月 |
| 活動場所(市町村) | | 大阪市旭区 | | 守口市 | 守口市 |
| 活動場所 | | 淀川河川公園（太子橋地区） | 大枝公園 | 河川公園（八雲地区又は、太子橋地区） | 河川公園太子橋地区から八雲地区 |
| 参加対象者 | | 通行人、河川公園利用者 | 守口市　未就学児・小学生及び保護者他、近隣住民 | 小学生以下（保護者同伴） | 地域住民 |
| 定員 | | 特になし | 300名 | 30名 | 15名 |
| 年間スケジュール | 4月 | | 第4回実行委員会/準備 | | |
| | 5月 | 準備 | 実施 | | |
| | 6月 | 実施 | 第5回実行委員会 | | |
| | 7月 | | | | 打合せ |
| | 8月 | | | 下見・使用申請書提出 | 打合せ |
| | 9月 | 準備 | | 広報・スタッフ決定・備品手配 | 打合せ |
| | 10月 | 実施 | | 実施 | 広報 |
| | 11月 | 準備 | | | 準備 |
| | 12月 | 実施 | | | 実施 |
| | 1月 | 準備 | | | |
| | 2月 | 実施 | | | |
| | 3月 | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | スタッフ２名（通行人数調査・荷物番・聴取補助等） | スタッフ５名（受付と誘導2名・コーナー運営3名） | スタッフ6名以上（受付・安全管理補助・計測・集計など） | スタッフ4名（安全管理・受付け等） |
| 広報・募集方法 | | | 守口市広報誌・チラシ・HP | チラシ・HP | チラシ・HP |
| 支援要望事項 | | 物品貸与と印刷 | 物品貸与と印刷 | 物品貸与・印刷 | 印刷物依頼・物品貸与 |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 通行人、河川公園利用者の妨げにならない場所で行う | | 実施場所検討中。毎年蜂がいるので、参加者にも募集時より注意喚起を行う。 | 安全管理未定 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | ヒヤリハットマップ作成・結果の | スタッフ確保 | スタッフ確保 | |
| その他 | | | | 金子留美子先生に依頼予定 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 | 枚方 |
| 氏名 | | 道場　明子 | 道場　明子 |
| No. | | 5 | 6 |
| 活動名 | | 寝屋川市立中央図書館　防災講座 | みんなで考える淀川の安全な使い方意見交換会 |
| 主たる活動分野 | | A治水・防災 | C河川利用 |
| 活動目的（１００字程度） | | 水の防災・減災啓発 | 河川利用者・地域住民・管理者が一堂に会し、河川利用に関する体験や課題を共有することで、利用者自身が安全な使い方を考え、守り続けられる河川利用の仕組みを地域に定着させることを目的とする。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 逃げ遅れゼロを目指し、参加者が今自分にできる事をハザードマップ等をもとに考える座学とワークショップ。（内容変更の可能性有） | 河川利用者・地域住民・管理者が集まり、意見交換会で体験と課題を共有。利用者自身が安全な使い方を考え、守り続けられる河川利用の仕組みを地域に定着させる。 |
| 運営形態 | | 共催 | |
| 連携予定 | 市民団体等 | 寝屋川市立中央図書館　共催 | |
| | 行政機関 | | |
| | 学校関係 | | |
| 活動予定月 | | 1月 | 2月 |
| 活動場所(市町村) | | 寝屋川市 | |
| 活動場所 | | 寝屋川市市立中央図書館 | |
| 参加対象者 | | 地域住民 | |
| 定員 | | 20名 | |
| 年間スケジュール | 4月 | | |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| | 7月 | | |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| | 10月 | 打合せ | |
| | 11月 | | |
| | 12月 | 使用物準備 | 打合せ |
| | 1月 | 実施 | 準備 |
| | 2月 | | 実施 |
| | 3月 | | |
| スタッフ（人数・役割） | | スタッフ2名（ワークフォロー） | 未定 |
| 広報・募集方法 | | 寝屋川市広報・チラシ・HP | チラシ・HP |
| 支援要望事項 | | 印刷物依頼・物品貸与 | 印刷物依頼・物品貸与 |
| 水害体験施設の要望 | | | |
| 安全対策 | | 感染症対策 | 未定 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | 参加協力団体への声掛け |
| その他 | | | |

| 氏名 | 岡村　雅広 | 区分 | 河川レンジャー（2期1年目） | 所属 | 枚方出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

**１．活動の目的・目標**

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等　　河川における「川ゴミ」を少しでも減らせるよう多くのみなさんとともに取り組みたいと思いました。また担当エリアの枚方において住民のみなさんと淀川とを多方面での活動を通じてつないで河川レンジャーを知って思えればと思っています。

（2）川の課題と整備計画のつながり
川の課題：「かわまちづくり」の取組において枚方市はじめ協議会と連携し、住民とともに「なごめる水辺づくり」を目指していく。（環境維持：水辺の保全・再生・河川清掃）
河川整備計画該当部分（４．５．１）：人と川とのアプローチ　淀川河川公園　枚方において、川を身近に感じ、エリアの価値や親水性を高める。
淀川河川公園　枚方・三矢地区　公園整備計画　　多自然池エリア　高水敷の切り下げ後の環境維持

（3）活動の目的：河川レンジャー活動を通じて、淀川河川公園多自然池エリアを、多くの市民が訪れ、川を身近に感じ、幸せを感じる「なごめる水辺」にしていくこと

**1.2　最終的な目標**

・多自然池エリアにおいて、住民・行政・河川レンジャーが協働で取り組む「なごめる水辺づくり」が継続的に行われる体制をつくること。住民が主体的に関わり、行政へ意見が届く仕組みが定着している状態をめざす。

**1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力**

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 試行期間 | 取り組む時期 1期 | | 2期 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | ・多自然池エリアにおける四季の変化と川ゴミの実態を体験いただくことから淀川に親しみを持っていただける人の輪づくりを目指します。　・枚方市の学校を含む各種団体に対して河川レンジャーの存在を知ってもらえるよう積極的に活動をする。 | ・なごめる水辺づくり | 多自然池エリアにおける川ゴミ清掃 | | ⇒ | ⇒ | | |
| | | ・枚方市内の児童、生徒、学生に対する防災授業、川での学習 | 出前授業を中心とした防災学習 | | ⇒ | ⇒ | | |
| | | ・地域との連携による人と川をつなげる活動 | 地域安全安心部会や高齢者対象講座受講生を対象に防災学習・歴史散策・淀川発見講座<br>枚方市緑化フェスティバル出展 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 活動を通じてできた人の輪から得た意見を河川管理者、および枚方市の関連部署に伝えることにより、目指すべき多自然池の姿を見える化していく。 | ・なごめる水辺づくり | ゴミ拾いの他自然観察、外来生物除去、伐木後の整備 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ・なごめる水辺づくりワーキング（仮） | 整備計画に基づいた高水敷切り下げ後のあるべき姿を語らう集いを発足させ、行政側との調整を図ります。 | | | | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | レンジャー活動から生まれた意見を、定例的な場で行政へ共有する仕組みを構築し、住民主体の継続的な活動（環境保全・学習・モニタリング）につなげる。 | ・なごめる水辺づくりワーキング（仮） | 市民が中心となって継続する活動する組織をつくる。<br>枚方市が進めるかわまちづくりと連携し、流域治水や環境保全、維持管理等を進める。 | | | | | ⇒ |

**2. 課題、疑問点、相談したいことなど**

・生き物調査を実施するにあたり、採取した生き物の同定や説明を補助いただける人物の紹介。・夏季　繁茂する草の除草作業の要請

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 | 枚方 | 枚方 | 枚方 |
| 氏名 | | 岡村雅広 | 岡村雅広 | 岡村雅広 | 岡村雅広 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 地域との連携による人と川をつなげる活動<br>なごめる水辺づくりと ワーキング（仮） 多自然池整備計画について | 地域との連携による人と川をつなげる活動<br>枚方市緑化フェスティバル | なごめる水辺づくりNo.29～No.35 | 地域との連携による人と川をつなげる活動<br>区民カレッジ 城東校 枚方宿 淀川資料館見学と防災学習 |
| 主たる活動分野 | | D維持管理 | F川づくり・人づくり | D維持管理 | A治水・防災 |
| 活動目的（１００字程度） | | 多自然池エリアで実施された「高水敷の切り下げ」についての説明を受けて今後の活動の方向性を参加者とともに考える | 枚方市が毎年開催している「花とみどりをテーマとした市民イベント」に淀川河川公園管理センターを通じて参加要請を受け、「なごめる水辺づくり活動」他を紹介し河川レンジャーの認知を深める。 | 多自然池エリアをなごめる水辺にして流域住民の憩いの場を目指す | 枚方の歴史と文化、淀川について知見を広めていただくとともに水害災害についての心構えを認識いただく。 |
| 活動内容（１００字程度） | | エリアに流れ着いたゴミの回収・分別後、現地にて河川計画について説明を受ける | ３m×３mのスペースにパネルや資料を展示し来場者に対して河川レンジャー活動を紹介し、認知していただき活動への参加を促す。特に「淀川発見講座」を紹介します。 | エリアに流れ着いたゴミの回収・分別 | 枚方宿を街歩きし、淀川資料館で淀川を知っていただく。午後は中央流域センターで防災学習を実施する。 |
| 運営形態 | | 主催 | 協力 | 主催 | 協力 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | | | 大阪市 区民カレッジ 城東校 |
| | 行政機関 | 淀川河川事務所 河川公園管理センター 枚方市観光交流課 | 枚方市緑化フェスティバル実行委員会（事務局：公園みどり課）河川公園管理センター | 枚方市環境交流課、環境政策課 | 淀川河川事務所 河川環境課 |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月 | | 4月22日 | 4月25日 | 5/27 6/24 8/26 9/23 10/28 11/25 12/23 | 5月18日 |
| 活動場所(市町村) | | 枚方市 | 枚方市 | 枚方市 | 枚方市 |
| 活動場所 | | 淀川河川公園 枚方 多自然池エリア | 枚方市岡東ニッペパーク | 淀川河川公園 枚方 多自然池エリア | 枚方宿 淀川資料館 中央流域センター |
| 参加対象者 | | 一般 | 一般 | 一般 | 一般 |
| 定員 | | 20人 | 50人 | 25人 | 40人 |
| 年間スケジュール | 4月 | 河川事務所、枚方出張所への依頼・下見・実施・意見聴取・報告 | 事前打合せ・配布物準備・設営・実施・撤収・報告 | | 事前打合せ・淀川資料館予約・河川事務所へ講師要請 |
| | 5月 | | | 紹介チラシ配付・下見・安全確保・実施・意見聴収・次回案内・報告 | 下見・配布物準備・実施・アンケート実施・報告 |
| | 6月 | | | 同上 | |
| | 7月 | | | | |
| | 8月 | | | 紹介チラシ配付・下見・安全確保・実施・意見聴収・次回案内・報告 | |
| | 9月 | | | 同上 | |
| | 10月 | | | 同上 | |
| | 11月 | | | 同上 | |
| | 12月 | | | 同上 | |
| | 1月 | | | 同上 | |
| | 2月 | | | 同上 | |
| | 3月 | | | 同上 | |
| スタッフ（人数・役割） | | ・設営、活動内容、役割分担事前確認、安全確保、活動指導、撤収、反省会（レンジャー１～2名 パートナー2名） | ・設営・来場者対応・撤収（レンジャー1名） | ・設営、活動内容、役割分担事前確認、安全確保、活動指導、撤収、反省会（レンジャー１～2名 パートナー2名） | ・安全確保・資料配布（レンジャー1～2名 パートナー2名） |
| 広報・募集方法 | | | | ・活動閉会時に次回案内・過去の参加者及び団体へのメールにて募集 | ・次年度計画の打合せ |
| 支援要望事項 | | ・当日配付用チラシ、次回案内チラシの印刷 | | ・当日配付用チラシ、次回案内チラシの印刷 | ・当日配付用チラシの印刷 |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | | | ・活動日1週間前から現地状況に応じて安全に活動できるよう準備する。 | |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | 7月～8月にかけての植物の繁茂に対する除草。停泊地水際の安全確保 | |
| その他 | | 河川事務所、枚方出張所への依頼 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 | 枚方 |
| 氏名 | | 岡村雅広 | 岡村雅広 |
| No. | | 5 | 6 |
| 活動名 | | 地域との連携による人と川をつなげる活動<br>府民カレッジ　学研都市大東校 | 地域との連携による人と川をつなげる活動<br>府民カレッジ　ひらかた校 |
| 主たる活動分野 | | A治水・防災 | A治水・防災 |
| 活動目的（１００字程度） | | 水害災害についての心構えを認識いただく。 | 枚方の歴史と文化、淀川について知見を広めていただくとともに水害災害についての心構えを認識いただく。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 生涯学習センターの研修室で水害について学んでいただきハザードマップの見方、避難先の確認の上、マイ・タイムラインを作成いただき意見交換する。 | 枚方宿を街歩きし、淀川資料館で淀川を知っていただく。午後は中央流域センターで防災学習を実施する。 |
| 運営形態 | | 協力 | 協力 |
| 連携予定 | 市民団体等 | 府民カレッジ　学研都市大東校 | 府民カレッジ　ひらかた校 |
| | 行政機関 | | 淀川河川事務所　河川環境課 |
| | 学校関係 | | |
| 活動予定月 | | 10月6日 | 10月21日 |
| 活動場所(市町村) | | 大東市 | 枚方市 |
| 活動場所 | | 住道　生涯学習センター　アクロス | 枚方宿　淀川資料館　　中央流域センター |
| 参加対象者 | | 一般 | 一般 |
| 定員 | | 40人 | 40人 |
| 年間スケジュール | 4月 | | 淀川資料館予約・河川事務所へ講師要請 |
| | 5月 | | |
| | 6月 | | |
| | 7月 | | |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| | 10月 | 事前打合せ（参加人数　スケジュール　内容　下見）配布物準備 | 事前打合せ |
| | 11月 | 実施・アンケート実施・報告 | 下見・配布物準備・実施・アンケート実施・報告 |
| | 12月 | | |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |
| | 3月 | | |
| スタッフ（人数・役割） | | ・設営・資料配布補助・研修内容説明補助（レンジャー1名） | ・安全確保・資料配布（レンジャー1～2名　パートナー2名） |
| 広報・募集方法 | | ・次年度計画の打合せ | ・次年度計画の打合せ |
| 支援要望事項 | | ・当日配付用チラシの印刷 | ・当日配付用チラシの印刷 |
| 水害体験施設の要望 | | | |
| 安全対策 | | | |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | |
| その他 | | | |

| 氏名 | 天野 康生 | 区分 | 河川レンジャー（1期2年目） | 所属 | 枚方出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

**１．活動の目的・目標**

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画・河川公園整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等
庭窪ワンド周辺では、漂着ごみやごみのポイ捨てが見られ、またワンド内への外来種の侵入などにより水辺の環境が低下している。

（2）川の課題と整備計画のつながり
川の課題：外来種対策、良好な景観の保全・創出および、水辺や河原の保全・再生
河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分： P.46～51

（3）活動の目的
多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す。

**1.2　最終的な目標**

庭窪ワンド群の持つ生物多様性ホットスポットとしての価値を、維持・向上し続けられる枠組み（住民と行政の協働）を構築する。

**1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力**

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 庭窪ワンドの認知度向上と課題の吸い上げ。 | 庭窪ワンド観察会 | 庭窪ワンドを知る活動として、地域向けのイベント(散策、生き物、外来種の勉強会など)を行う。 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 庭窪ワンドエリアにおいて、地域住民が気軽に訪れたくなるような“ビーチ化”を目指す。 | 庭窪ワンド保全活動 | 人の往来が安全に行えるよう草刈りと樹木の剪定、および漂着ゴミの清掃活動を行う。 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | 庭窪ワンド保全活動 | ２４号ワンドの草刈、伐木、オイルフェンス設置による外来植物侵入防止など、景観の改善および安全な水辺づくりを目指す。 | | | | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 地域住民の庭窪ワンドへのニーズを把握・整理し、行政に改善要望として伝え実現を目指す。 | 庭窪ワンド保全意見交換会 | 活動参加者、地域住民や行政との意見交換会を設定する | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | | | | | | | |

**2. 課題、疑問点、相談したいことなど**

【課題】観察会の講師調整、伐採可能なエリア、植物の種類の把握、伐採後の処置、整備エリアへの漂着ゴミ防止(川へのネットの設置など)
【疑問点】整備計画の進捗、変更点

【相談】淀川河川事務所、河川レンジャー諸先輩との相談、調整。守口市、門真市への効果的な働きかけ方。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 | 枚方 | 枚方 | 枚方 |
| 氏名 | | 天野 康生 | 天野 康生 | 天野 康生 | 天野 康生 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 庭窪ワンド保全活動 | 庭窪ワンド保全活動 | 庭窪ワンド保全活動 | 庭窪ワンド観察会 |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | B環境保全 | B環境保全 | B環境保全 |
| 活動目的（１００字程度） | | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す |
| 活動内容（１００字程度） | | 庭窪ワンド周辺の清掃、外来種植物などの駆除・侵入防止<br>作業エリアの草刈、樹木剪定 (活動後に処分できる規模) | 庭窪ワンド周辺の清掃、外来種植物などの駆除・侵入防止<br>作業エリアの草刈、樹木剪定 (活動後に処分できる規模) | 庭窪ワンド周辺の清掃、外来種植物などの駆除・侵入防止<br>作業エリアの草刈、樹木剪定 (活動後に処分できる規模) | 庭窪ワンド周辺の清掃、外来種植物などの駆除・侵入防止<br>ワンド内の観察会 |
| 運営形態 | | 共催 | 共催 | 共催 | 共催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク |
| | 行政機関 | | | | |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月 | | 4月12日 | 5月10日 | 6月14日 | 7月12日 |
| 活動場所(市町村) | | 守口市 | 守口市 | 守口市 | 守口市 |
| 活動場所 | | 庭窪ワンド | 庭窪ワンド | 庭窪ワンド | 庭窪ワンド |
| 参加対象者 | | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 |
| 定員 | | 未定 | | | |
| 年間スケジュール | 4月 | 実施 | 出張所、事務局との調整 | 実施計画書作成 | |
| | 5月 | | 実施 | 出張所、事務所との調整 | 実施計画書作成 |
| | 6月 | | | 実施 | 出張所、事務所との調整 |
| | 7月 | | | | 実施 |
| | 8月 | | | | |
| | 9月 | | | | |
| | 10月 | | | | |
| | 11月 | | | | |
| | 12月 | | | | |
| | 1月 | | | | |
| | 2月 | 2026年2月：実施計画書作成 | | | |
| | 3月 | 2026年3月：出張所、事務局との調整 | 2026年3月：実施計画書作成 | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 |
| 広報・募集方法 | | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内に加えて、観察会としての案内先を検討 |
| 支援要望事項 | | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 | 枚方 | 枚方 | 枚方 | |
| 氏名 | | 天野 康生 | 天野 康生 | 天野 康生 | 天野 康生 | |
| No. | | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| 活動名 | | 庭窪ワンド意見交換会 | 庭窪ワンド保全活動 | 庭窪ワンド保全活動 | 庭窪ワンド保全活動 | |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | B環境保全 | B環境保全 | B環境保全 | |
| 活動目的（１００字程度） | | 現場活動を行う実践者から、体験に基づく課題や庭窪ワンドをこういう場所にしていきたいという声を聞き、活動のブラッシュアップを図る。 | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す | |
| 活動内容（１００字程度） | | 庭窪ワンド保全活動に参加いただいている団体代表者との意見交換会 | 庭窪ワンド周辺の清掃、外来種植物などの駆除・侵入防止<br>作業エリアの草刈、樹木剪定 (活動後に処分できる規模) | 庭窪ワンド周辺の清掃、外来種植物などの駆除・侵入防止<br>作業エリアの草刈、樹木剪定 (活動後に処分できる規模) | 庭窪ワンド周辺の清掃、外来種植物などの駆除・侵入防止<br>作業エリアの草刈、樹木剪定 (活動後に処分できる規模) | |
| 運営形態 | | 共催 | 共催 | 共催 | 共催 | |
| 連携予定 | 市民団体等 | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク | 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク | |
| | 行政機関 | | | | | |
| | 学校関係 | | | | | |
| 活動予定月 | | 8月9日 | 9月13日 | 10月11日 | 11月8日 | |
| 活動場所(市町村) | | 守口市 | | | | |
| 活動場所 | | 庭窪レストセンター | 庭窪ワンド | 庭窪ワンド | 庭窪ワンド | |
| 参加対象者 | | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 | |
| 定員 | | | | | | |
| 年間スケジュール | 4月 | | | | | |
| | 5月 | | | | | |
| | 6月 | 実施計画書作成 | | | | |
| | 7月 | 出張所、事務所との調整 | 実施計画書作成 | | | |
| | 8月 | 実施 | 出張所、事務所との調整 | 実施計画書作成 | | |
| | 9月 | | 実施 | 出張所、事務所との調整 | 実施計画書作成 | |
| | 10月 | | | 実施 | 出張所、事務所との調整 | |
| | 11月 | | | | 実施 | |
| | 12月 | | | | | |
| | 1月 | | | | | |
| | 2月 | | | | | |
| | 3月 | | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 未定 | 未定 | 未定 | 未定 | |
| 広報・募集方法 | | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 | |
| 支援要望事項 | | 庭窪エリアの過去の景観データや開発計画等 | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 | |
| 水害体験施設の要望 | | | | | | |
| 安全対策 | | 庭窪レストセンターの空調等、設備の点検 | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 | |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | | |
| その他 | | | | | | |

| | | |
|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 |
| 氏名 | | 天野 康生 |
| No. | | 9 |
| 活動名 | | 淀川水系一斉美化アクション |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 |
| 活動目的（１００字程度） | | 多様な生きものが生息する環境と、人の往来が容易となる安全な動線と川について学ぶ場所を構築し、地域住民が気軽に訪れる魅力ある場所に変えることで川の課題解決を目指す |
| 活動内容（１００字程度） | | 庭窪ワンド周辺の清掃 |
| 運営形態 | | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | |
| | 行政機関 | |
| | 学校関係 | |
| 活動予定月 | | 2月14日 |
| 活動場所(市町村) | | |
| 活動場所 | | 庭窪ワンド |
| 参加対象者 | | 門真エコネットワーク連絡会、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、同志社大学、一般参加 |
| 定員 | | |
| 年間スケジュール | 4月 | |
| | 5月 | |
| | 6月 | |
| | 7月 | |
| | 8月 | |
| | 9月 | |
| | 10月 | |
| | 11月 | |
| | 12月 | 実施計画書作成 |
| | 1月 | 出張所、事務所との調整 |
| | 2月 | 実施 |
| | 3月 | |
| スタッフ（人数・役割） | | 未定 |
| 広報・募集方法 | | これまで参加いただいている団体代表、個人へのメール案内 |
| 支援要望事項 | | 清掃用具 (トング、ゴミ袋) 貸出、ごみの回収 |
| 水害体験施設の要望 | | |
| 安全対策 | | 事前視察および当日の活動場所点検。<br>活動開始前に集合し、安全点検、準備運動を行う。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | |
| その他 | | |

| 氏名 | 土井　宣史 | 区分 | 河川レンジャー（試行期間） | 所属 | 枚方出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画・河川公園整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等
・淀川は特に利水面で自然の恵みを与えてくれる貴重な存在ですが、利水施設に接する機会は少なく、危険だからと遠ざけたりするのでほとんどの住民にとって淀川は目の前にあっても日常的には存在感が薄いのが現実です。淀川の認知度を高める為には淀川が与えてくれる「恵みと脅威」を正しく理解する事が出発点だと思います。
・流域住民と一緒に淀川の「恵みと脅威」を学び考え、様々な活動を通じて淀川に触れることで「人と川のつながり」意識を高めたい。

（2）川の課題と整備計画のつながり
川の課題：①流域住民にとって貴重な存在である淀川への関心が低い　②河川整備が進み「水害は発生しないという正常性バイアス」により水害への備えが不十分な人が多い
河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：【課題①】「4.1.2 日常からの人と川とのつながりの構築」(1)人と川をつなぐ 2)住民参加推進プログラムの作成、推進
【課題②】「4.3.2 淀川水系における治水・防災対策」(4)危機管理体制の構築 1)自分で守る ①防災意識の啓発

（3）活動の目的：①恵みの一面である淀川の自然に触れ環境の大切さを認識して貰う　②脅威の一面である淀川の水害リスクを認識して貰う

### 1.2　最終的な目標

①流域住民の淀川に対する関心を高め、淀川の為に何らかのアクションをして貰う
②流域住民の防災意識を高め、水害への備えと災害時の行動ができる様になって貰う

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 1 淀川に対する関心を高める為に「川にふれてもらう」活動を企画し、淀川の恵みと環境の大切さを感じて貰う<br>2 「自分で守る」レベルを高める為に「水害を体験する」活動を企画し、水害のリスクを感じて貰う | 左記目標１を達成する為の「淀川中流域左岸のワンド散策」活動 | 淀川中流域左岸にあるワンドを散策する場を提供する（三矢ワンド、牧野ワンド、楠葉ワンドなどが散策の候補地） | ⇒ | | | | |
| | | 左記目標２を達成する為の「明倫学区住民の防災意識向上」活動 | 明倫学区自主防災会主催の防災訓練において浸水地歩行を体験する場を提供する | ⇒ | | | | |
| | | | | | | | | |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

## 2. 課題、疑問点、相談したいことなど

・明倫学区自主防災会の定期連絡会に出席して河川レンジャーとして貢献できる事を説明した(2025年12月13日)⇒2026年度防災訓練で浸水地歩行体験ブースを出す方向が決まった

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出張所 | | 枚方 | 枚方 |
| 氏名 | | 土井宣史 | 土井宣史 |
| No. | | 1 | 2 |
| 活動名 | | 淀川中流域左岸のワンド散策活動 | 明倫学区住民の防災意識向上活動 |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | A治水・防災 |
| 活動目的（１００字程度） | | 淀川に触れる事で淀川の恵みと環境保全の大切さを感じて貰う | 水害による浸水発生時の怖さを体験して貰い、早期避難の大切さを理解して貰う |
| 活動内容（１００字程度） | | 淀川中流域左岸にあるワンドを散策する場を提供し、<br>流域住民に参加して貰う | 明倫学区自主防災会主催の防災訓練において浸水地歩行を<br>体験する場を提供し、防災訓練に参加した住民に体感して貰う |
| 運営形態 | | 主催 | 協力 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | 明倫学区自主防災会 |
| | 行政機関 | | |
| | 学校関係 | | |
| 活動予定月（日） | | 2027年3月 | 2026年11月<br>（2025年度の防災訓練は11月23日に開催） |
| 活動場所(市町村) | | 枚方市 | 枚方市 |
| 活動場所 | | 未定（候補：三矢ワンド/牧野ワンド/楠葉ワンド/など） | 枚方市立明倫小学校　校庭 |
| 参加対象者 | | 枚方市民 | 明倫学校区の住民（防災訓練に参加した住民） |
| 定員 | | | |
| 年間スケジュール | 4月 | | |
| | 5月 | 枚方いきもの調査会と打合せ | |
| | 6月 | 候補地の調査Ⅰ | 活動実施日決定 |
| | 7月 | 候補地の調査Ⅱ | 明倫学区自主防災会と具体的打合せ |
| | 8月 | 活動実施計画の作成・提出（計画承認後、広報開始） | 現地確認（下見） |
| | 9月 | 現地確認（下見） | 活動実施計画の作成・提出（計画承認後、広報開始） |
| | 10月 | 活動実施（具体的実施日は未定） | 明倫学区自主防災会と最終打合せ、現地最終確認（下見） |
| | 11月 | | 活動実施（具体的実施日は未定） |
| | 12月 | | |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |
| | 3月 | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 1 人数：１名<br>2 役割：ワンド散策時の安全確認、他 | 1 人数：１～２名<br>2 役割：体験キットの設営・片付け、体験時の安全確認、他 |
| 広報・募集方法 | | ・枚方市広報誌への掲載<br>・パンフレット掲示/配布、他 | 明倫学区自主防災会による広報 |
| 支援要望事項 | | 1 河川レンジャーのぼり、ビブス、救急セット、他の貸し出し<br>2 ワンドに関する資料のコピー | 河川レンジャーのぼり、ビブス、他の貸し出し |
| 水害体験施設の要望 | | | 浸水地歩行体験キット（フリー） |
| 安全対策 | | ・散策ルートの安全確認（下見）<br>・開催当日の天候確認 | 浸水地体験キット周辺での転倒防止（特に高齢者） |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | |
| その他 | | | |

| 氏名 | 杉本　真一 | 区分 | 河川レンジャー（特例再任 1期2年目） | 所属 | 高槻出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的　⇒

（1）活動の背景、きっかけ等　【現状】～遊び方を知らない子どもたち～
子どもの生活スタイルが多様化し、放課後の塾や習い事で多忙であること等から、川で遊んだことのある子どもが少なくなっている。また、学校では「川は危ない、近づくな」と指導され、安全教育の必要性がある。一方、風水害をはじめとする自然災害は増加傾向にあり、住民の防災意識は高まっていると共に、学校現場における「防災教育」のニーズが求められている。

（2）川の課題と整備計画のつながり
川の課題：河川環境の理解　防災意識の向上
河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：4.2河川環境　4.1.3防災　1）自分で守る①防災意識の啓発（P13川と人のつながり,P41_42教育）

（3）活動の目的
自然とふれあう機会が少ない子どもたちに、学校では経験のできない自然体験学習や防災学習を実施する。特に高槻市を南北に流れる芥川と淀川とのつながりを意識しながら、子どもの健全育成と河川への興味関心を深めていく。また、多くの世代へ淀川や芥川の魅力や現状を学び教え合う場を創出し、地域の防災や自然環境、歴史、文化などへの理解を深め、持続可能な「川づくりの担い手」を広げていくことを目指す。特に、教育現場における「河川教育」の機会をつくり、教員に向けた授業づくりの研修など、協力体制の促進を目指す。

### 1.2　最終的な目標

地域とのゆるやかな連携を築きながら、「川づくりの担い手」のしくみの確立を目指す

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 活動名 | 活動内容 | 試行期間 | 1期 | | 2期 | | 特例1期 | |
| | | | | | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 6年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 【つながり】地域住民とのかかわりきっかけづくり | ①「高槻ジュニア河川レンジャー」の実施 | ・川と自然のかかわりを理解する体験プログラム<br>・参加者の募集や関係機関との調整 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ②「川の学習会～川スタ（ｽﾀﾃﾞｨ）～」の実施 | ・河川に関するテーマ（防災、環境、歴史観光等）を学ぶプログラム※小学校などでの防災出前授業や地域の防災講座 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 【ひろがり】河川レンジャーが河川管理者や地域団体と協働 | ①「高槻ジュニア河川レンジャー」の展開 | ・他機関との協力体制を構築する<br>・参加者、サポートスタッフの育成 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ②「川の学習会～川スタ～」の展開 | ・地域団体等とプログラムの実施（防災学習など）<br>※持続可能な活動に向け教育委員会等との連携 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 【ゆるやかな連携】学校が主体となって防災教育を推進するしくみ（担い手）作りを支援 | ①「高槻ジュニア河川レンジャー」の展開 | ・参加者が教え学び合う場づくりの支援 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ②「川の学習会～川スタ～」の展開 | ・地域団体の避難訓練等への支援<br>・小学校等での出前授業や、子どもたちが活動を発表する場の創出<br>・教育機関での授業づくり研修など河川教育の推進 | | | | | | | ⇒ |

## 2. 課題、疑問点、相談したいことなど

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 | 高槻 | 高槻 | 高槻 |
| 氏名 | | 杉本真一 | 杉本真一 | 杉本真一 | 杉本真一 |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | 川の学習会～川スタ～（環境講座　鵜殿のヨシから学ぶシリーズ） | 高槻ジュニア河川レンジャー | 高槻ジュニア河川レンジャー | 川の学習会～川スタ～ |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | F川づくり・人づくり | F川づくり・人づくり | B環境保全 |
| 活動目的（１００字程度） | | 高槻市鵜殿（淀川右岸）に残る「鵜殿のヨシ原」の水辺環境を学び、ヨシ笛づくり体験等を通じ、淀川の魅力にふれ合う。 | 高槻市内を流れる淀川や芥川の魅力にふれながら、子どもたちが体験活動を通じ川を知り、自然を守る「ジュニア河川レンジャー」として育成する。「自然観察」「川の安全」「防災」等のプログラムの充実を図る | 高槻市内を流れる淀川や芥川の魅力にふれながら、子どもたちが体験活動を通じ河川を知り、自然を守る「ジュニア河川レンジャー」として育成する。「自然観察」「川の安全」「防災」等のプログラムの充実を図る | 自然とのふれあいや環境への興味・関心を持つきっかけ作りの場として、環境に優しい行動を啓発、自然を大切にする子どもたちの健やかな育成を図ることを目指す。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 鵜殿のヨシ原の環境学習、ヨシ笛づくり（出前講座） | 川の安全ウォーク（芥川）川の特質を知り安全な河川利用について学ぶ | 川の安全ウォーク（芥川）川の特質を知り安全な河川利用について学ぶ | 【水辺の生き物観察会】地域を流れる淀川と芥川・大正川を考え、防災・自然環境・などをテーマとした学習会の実施。安全な河川利用（ライフジャケット）や防災についての情報提供 |
| 運営形態 | | 主催 | 主催 | 主催 | 共催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | 教育機関（認定こども園　いまむらこどもえん） | | | あくあぴあ芥川 |
| | 行政機関 | | | | 摂津市（環境政策課） |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
| 活動場所(市町村) | | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 |
| 活動場所 | | 教育機関（認定こども園　いまむらこどもえん） | 芥川流域（JR高槻駅～桜堤公園～芥川緑地公園～摂津峡公園） | 芥川流域（二十バス停～芥川大橋～鷺打橋） | 高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川） |
| 参加対象者 | | 地域住民及び園児、保護者徒など | 地域の小学校３～６年生、地域の中学高校の自然科学クラブなど（保護者参加も可能） | 地域の小学校３～６年生、地域の中学校高校の自然科学クラブなど（保護者の参加も可能） | 摂津市小学校の児童及び保護者 |
| 定員 | | 20名 | 15名 | 15名 | 親子15組（40名） |
| 年間スケジュール | 4月 | 活動実施　場所：いまむらこどもえん　（R8.2に事前打合せ） | | | |
| | 5月 | | 川の安全ウォーク（芥川北部） | | |
| | 6月 | | | 川の安全ウォーク（芥川南部） | |
| | 7月 | | | | 芥川水辺の生き物観察会 |
| | 8月 | | | | |
| | 9月 | | | | |
| | 10月 | | | | |
| | 11月 | | | | |
| | 12月 | | | | |
| | 1月 | | | | |
| | 2月 | | | | |
| | 3月 | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | | 協力スタッフ　2名程度　（参加者の安全確認、活動のサポート） | 協力スタッフ　若干名　（参加者の安全確認、活動のサポート） | 講師（各回テーマに沿った学識経験者など）<br>協力スタッフ　5名程度　（参加者の安全確認、活動のサポート） |
| 広報・募集方法 | | 関係機関からの案内 | レンジャーHPや広報、地域行事などでの告知 | レンジャーHPや広報、地域行事などでの告知 | 摂津市広報などでの告知 |
| 支援要望事項 | | ヨシ笛工作資材、環境教室資材、資料印刷など | スタッフ経費（実費交通費等）、資料印刷、保険加入など | スタッフ経費（実費交通費等）、資料印刷、保険加入など | 講師謝金、スタッフ経費（実費交通費等）、資料印刷、保険加入、観察会資材、ライフジャケット借用など |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | クラフト作業時における安全啓発（ノコギリ、ハサミ使用時） | 歩行移動時における安全啓発（川へは入らない） | 歩行移動時における安全啓発（川へは入らない） | 移動時における安全指導、活動エリアの上流及び下流にスタッフを配置（定点活動時） |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | 実施にあたっては６か月前に摂津市へ相談し、実施に向け協力を依頼する。<br>講師は河合典彦氏（環境省希少野生動植物種保存推進員）を予定 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 | 高槻 | 高槻 | 高槻 |
| 氏名 | | 杉本真一 | 杉本真一 | 杉本真一 | 杉本真一 |
| No. | | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 活動名 | | 高槻ジュニア河川レンジャー | 高槻ジュニア河川レンジャー | 高槻ジュニア河川レンジャー | 川の学習会～川スタ～ |
| 主たる活動分野 | | F川づくり・人づくり | F川づくり・人づくり | F川づくり・人づくり | B環境保全 |
| 活動目的（１００字程度） | | 高槻市内を流れる淀川や芥川の魅力にふれながら、子どもたちが体験活動を通じ川を知り、自然を守る「ジュニア河川レンジャー」として育成する。「自然観察」「川の安全」「防災」等のプログラムの充実を図る | 高槻市内を流れる淀川や芥川の魅力にふれながら、子どもたちが体験活動を通じ河川を知り、自然を守る「ジュニア河川レンジャー」として育成する。「自然観察」「川の安全」「防災」等のプログラムの充実を図る | 高槻市内を流れる淀川や芥川の魅力にふれながら、子どもたちが体験活動を通じ河川を知り、自然を守る「ジュニア河川レンジャー」として育成する。「自然観察」「川の安全」「防災」等のプログラムの充実を図る | 地域を流れる淀川と芥川を考え、防災・自然環境・歴史などをテーマとした学習会等を実施する。小中学校等での環境教育（出前授業）に取組み、環境意識の向上と「水と私たちはつながっている」ことを伝えていく。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 淀川の上流にある琵琶湖を訪ね、琵琶湖の環境や川の特質を知り安全な河川利用について学ぶ | 川の安全ウォーク（芥川・摂津峡）活動や防災学習を多くの方に公開する | 川の安全ウォーク（芥川）川の特質を知り安全な河川利用について学ぶ | 環境教室（出前授業）で河川と私たちの生活を知り、環境についての知識の向上を図る。また、教育現場での河川教育促進に向けた研修などの実施 |
| 運営形態 | | 主催 | 主催 | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | 高槻市市民公益活動サポートセンター | | |
| | 行政機関 | | 高槻市 | | 高槻市教育委員会 |
| | 学校関係 | | | | 高槻市立小中学校 |
| 活動予定月 | | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
| 活動場所(市町村) | | 滋賀県大津市 | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 |
| 活動場所 | | 瀬田川洗堰、アクア琵琶 | 高槻市総合センター１F展示ホール | 芥川流域（二十バス停～津之江公園付近～城西橋～JR鉄橋） | 高槻市立小中学校及びその周辺 |
| 参加対象者 | | 地域の小学校３～６年生、地域の中学高校の自然科学クラブなど（保護者参加も可能） | | 地域の小学校３～６年生、地域の中学校高校の自然科学クラブなど（保護者の参加も可能） | 高槻市立小中学校の児童及び生徒 |
| 定員 | | 15名 | 20名 | 15名 | 対象学年全クラス |
| 年間スケジュール | 4月 | | | | |
| | 5月 | | | | |
| | 6月 | | | | |
| | 7月 | | | | |
| | 8月 | 瀬田川洗堰、アクア琵琶の見学 | | | |
| | 9月 | | 洪水から身を守るためにできること　市民向け公開講座 | | |
| | 10月 | | | 川の安全ウォーク（芥川南部） | |
| | 11月 | | | | 小学校での環境教室 |
| | 12月 | | | | |
| | 1月 | | | | |
| | 2月 | | | | |
| | 3月 | | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 協力スタッフ　2名程度　（参加者の安全確認、活動のサポート） | 協力スタッフ　２名程度　（参加者の安全確認、活動のサポート） | 協力スタッフ　若干名　（参加者の安全確認、活動のサポート） | 協力スタッフ　若干名　（参加者の安全確認、活動のサポート） |
| 広報・募集方法 | | レンジャーHPや広報、地域行事などでの告知 | レンジャーHPや広報、地域行事などでの告知 | レンジャーHPや広報、地域行事などでの告知 | 高槻市立小中学校との打合せによる |
| 支援要望事項 | | スタッフ経費（実費交通費等）、資料印刷、保険加入など | スタッフ経費（実費交通費等）、資料印刷、保険加入など | スタッフ経費（実費交通費等）、資料印刷、保険加入など | 環境教室資材、資料印刷など |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 歩行移動時における安全啓発（川へは入らない） | 移動時における安全指導 | 歩行移動時における安全啓発（川へは入らない） | 歩行移動時における安全啓発 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 | 高槻 | 高槻 | 高槻 |
| 氏名 | | 杉本真一 | 杉本真一 | 杉本真一 | 杉本真一 |
| No. | | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 活動名 | | 川の学習会～川スタ～ | 川の学習会～川スタ～（環境講座　鵜殿のヨシから学ぶシリーズ） | 川の学習会～川スタ～ | 高槻ジュニア河川レンジャー（淀川水系一斉美化アクション） |
| 主たる活動分野 | | A治水・防災 | B環境保全 | A治水・防災 | C河川利用 |
| 活動目的（１００字程度） | | 地域を流れる淀川と芥川を考え、防災・自然環境・歴史などをテーマとした学習会等を実施する。特に、小中学校等での防災教育（出前授業）に取組み、防災意識の向上と「自分の命は自分で守る」ということを伝えていく。また、持続可能な防災教育の体系作りに向けた検討を行う。 | 高槻市鵜殿（淀川右岸）に残る「鵜殿のヨシ原」の水辺環境を学び、ヨシ笛づくり体験等を通じ、淀川の魅力にふれ合う。 | 地域を流れる淀川と芥川を考え、防災・自然環境・歴史などをテーマとした学習会等を実施する。小中学校等での環境教育（出前授業）に取組み、環境意識の向上と「水と私たちはつながっている」ことを伝えていく。 | 高槻市内を流れる淀川や芥川の魅力にふれながら、子どもたちが体験活動を通じ河川を知り、自然を守る「ジュニア河川レンジャー」として育成する。「自然観察」「川の安全」「防災」等のプログラムの充実を図る |
| 活動内容（１００字程度） | | 防災教室（出前授業）河川を知り、防災についての知識の向上を図る。 また、教育現場での河川教育促進に向けた研修などの実施 | 鵜殿のヨシ原の見学、環境学習（出前講座形式） | 環境教室（出前授業）で河川と私たちの生活を知り、環境についての知識の向上を図る。また、教育現場での河川教育促進に向けた研修などの実施 | 淀川芥川クリーンアップ大作戦 |
| 運営形態 | | 主催 | 共催 | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | 高槻市立公民館、教育機関（認定こども園　いまむらこどもえん）他　依頼に応じて実施 | | 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク実行委員会 |
| 連携予定 | 行政機関 | 高槻市教育委員会 | | 高槻市教育委員会 | 高槻市（下水河川企画課） |
| 連携予定 | 学校関係 | 高槻市立小中学校 | | 高槻市立小中学校 | |
| 活動予定月 | | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 活動場所(市町村) | | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 |
| 活動場所 | | 高槻市立小中学校及びその周辺 | 高槻市立公民館、教育機関（認定こども園、小学校など） | 高槻市立小中学校及びその周辺 | 芥川流域（芥川大橋～次郎四朗橋） |
| 参加対象者 | | 高槻市立小中学校の児童及び生徒 | 地域住民及び園児、児童、生徒など | 高槻市立小中学校の児童及び生徒 | 地域の小学校３～６年生、地域の中学校高校の自然科学クラブなど（保護者の参加も可能） |
| 定員 | | 対象学年全クラス | | 対象学年全クラス | 15名 |
| 年間スケジュール | 4月 | | | | |
| 年間スケジュール | 5月 | | | | |
| 年間スケジュール | 6月 | | | | |
| 年間スケジュール | 7月 | | | | |
| 年間スケジュール | 8月 | | | | |
| 年間スケジュール | 9月 | | | | |
| 年間スケジュール | 10月 | | | | |
| 年間スケジュール | 11月 | | 事前打合せ | | |
| 年間スケジュール | 12月 | 小学校での防災教室 | | | 淀川芥川クリーンアップ大作戦実行委員会へ参加 |
| 年間スケジュール | 1月 | | 活動実施　鵜殿のヨシ原見学会 | | |
| 年間スケジュール | 2月 | | | 小学校での環境教室 | 淀川芥川クリーンアップ大作戦実行委員会へ参加 |
| 年間スケジュール | 3月 | | | | 淀川芥川クリーンアップ大作戦 |
| スタッフ（人数・役割） | | 協力スタッフ　若干名　（参加者の安全確認、活動のサポート） | | 協力スタッフ　若干名　（参加者の安全確認、活動のサポート） | 協力スタッフ　5名程度　（参加者の安全確認、活動のサポート） |
| 広報・募集方法 | | 高槻市立小中学校との打合せによる | 関係機関との打ち合わせによる | 高槻市立小中学校との打合せによる | レンジャーHPや広報、地域行事などでの告知 |
| 支援要望事項 | | 防災教室資材、資料印刷など | 環境教室資材、資料印刷、緊急用道路の進入許可証申請（ゲート鍵借用）など | 防災教室資材、資料印刷など | スタッフ経費（実費交通費等）、資料印刷、保険加入など |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 歩行移動時における安全啓発 | 歩行移動時における安全啓発（ヨシ原へは入らないなど） | 歩行移動時における安全啓発 | 歩行移動時における安全指導（川へは入らない） |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | |

| 氏名 | 竹本 克巳 | 区分 | 河川レンジャー（2期2年目） | 所属 | 高槻出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

**１．活動の目的・目標**

1.1活動の目的 ⇒淀川水系河川整備計画及び淀川河川公園基本計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等:
三島江地区は，パイロット的な箇所として河川敷の切り下げが行われた。しかし，河川管理者は，水辺の植生調査や安定した生物の環境を保つため，人の立ち入りなど環境を乱す行為を行わないよう旨の標識を設置し，野鳥観察等を行う河川利用者の立ち入りを制限した。このため，地域住民と河川管理者の橋渡し役となり，”いい川”づくりの一翼を担う河川レンジャーとして，地域住民等との意見交換を行い，住民の声を反映させた河川敷切り下げ区域の整備を実現し，河川環境の保全と河川利用とのトレードオフの関係を住民参画によって解決した。今後は切下げ地（タマリ）の保全を目的に実施する。

（2）川の課題と河川整備計画及び河川公園基本計画のつながり
川の課題：
①タマリの保全
ヤナギの再樹林化防止や、外来水草の駆除は継続して実施することが大切であり、また、多くの人手が必要となるため河川公園管理者だけでなく、地域住民等の協力を得て継続的に取り組み、タマリの環境を改善・保全していく。
課題は、淀川のワンド・タマリは生物の重要な生息・生育・繁殖環境である。タマリの保全は、生物の多様性の維持に貢献するために、モニタリング調査や維持管理（再樹林化防止・外来植物駆除）を効率的・効果的に活動を進めて、地域に定着させる。
②三島江野草地区の利用
自然環境の状況や利用状況、利用ニーズを継続的に把握し、利用者の意見を踏まえ、整備や管理運営の改善に反映させる取り組みが十分に行われてこなかった。
課題は、自然環境の保全・再生を優先し、人の立ち入りを抑制（Ⅲエリア 池と湿地の草原：原則立ち入り禁止）するなど利用調整を図る。
○河川整備計画該当部分：
①現状の課題
・3.2 河川環境：3.2.1 河川形状
・3.6 維持管理
・3.7 関連施策：3.7.1 淀川河川公園
②河川整備の方針と具体的な整備内容
・4.2 河川環境：4.2.1河川環境の保全と再生の基本的な考え方　4.2.2多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承（１）淀川水系を代表する希少生物等の生物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生（２）外来種対策の推進　4.2.3河川の連続性の確保（１）水辺や河原の保全・再生
・4.6 維持管理：4.6.1 維持管理に関する基本的な考え方　4.6.4 河川区域等の管理
・4.7 関連施策：4.7.1 淀川河川公園
○河川公園基本計画該当部分：
①現状の問題点
・４．現状の問題点
②整備及び管理運営計画：
・１．整備計画：（１）各ゾーンにおける整備の目的と内容　（２）施設整備計画
・２．管理運営計画：（１）各ゾーンにおける管理運営の目的と内容（２）自然環境の保全・再生や淀川らしい利用のための管理運営（３）多様な主体の参加と連携を図るための仕組みづくり

(3) 活動の目的及び目標
①タマリの保全
目的：劣化防止の知見を得るタマリの保全（モニタリング調査と維持管理）を実施
目標：「タマリの保全計画」（モニタリング調査、維持管理）の策定
②三島江野草地区の利用
目的：自然環境の保全・再生を妨げられることがないよう利用マナーの周知を実施
目標：「三島江野草地区の利用計画」の策定

**1.2　最終的な目標**

・ワンドの保全及び野草地区の利用の両方に係る総合的な目標は「三島江野草地区河川愛護団体」仮称の設立
「高槻市立第六中学校・自然観察同好会」を母体に設立を目指す

1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

①タマリの保全

| 段階 | 段階毎の目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | ・現状と課題の共有<br>・問題・課題が発生した因果関係から「仮説を設定」 | ①現地見学会、意見交換会の開催（現状と課題の共有）<br>（野草地区利用の現地見学会と同時開催） | ・タマリの現状と問題・課題を地域住民と共有し、タマリ劣化の要因の「仮説」を設定する。<br>・春の淀川・桜の玉川を歩く（淀川フィールドワーク） | | | | | ⇒ |
| | | ②ワンド生き物観察会　　春、秋季 | ・中学生を対象にタマリの生き物を観察する。<br>・「仮説」に基づきタマリ保全を実施する。<br>問診型モニタリング調査：投網、たも網魚貝類調査<br>維持管理：外来水草を駆除、ヤナギの環状剥皮 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ③三島江野草地区クリーンアップ大作戦<br>冬季 | ・三島江野草地区のゴミの収集を行い水質・底質、景観の改善を行う。 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ④野草地区のヤナギの再樹林化防止のため環状形成層剥皮活動 | ・ヤナギの再樹林化防止を目的に、「環状形成層剥皮法」の実験地を設置する。<br>・ヤナギの再樹林化防止を目的に環状剥皮活動を地元中学生と連携し実施する。 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ⑤～環境学習～自然とのふれあい（三島江公園）野鳥探索～ | 三島江河川公園野草地区に訪れる野鳥と冬の野草地区を探索する。 | | | | ⇒ | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | ・対応の合意形成<br>・改良に繋がる「仮説の検証」 | ① 意見交換会の開催（対応の合意形成）<br>（野草地区利用の意見交換会と同時開催） | ・タマリのモニタリング調査結果から「仮説」の検証を行う。<br>・～環境学習～自然とのふれあい（三島江公園）野鳥探索～ | | | | | ⇒ |
| | | ②タマリ生き物観察会　　春、秋季 | ・中学生を対象にタマリの生き物を観察する。<br>・「仮説」に基づきタマリ保全を実施する。<br>問診型モニタリング調査：投網、たも網魚貝類調査<br>維持管理：外来水草を駆除、ヤナギの環状剥皮 | | | | | ⇒ |
| | | ③野草地区のヤナギの再樹林化防止のため環状形成層剥皮活動 | ・ヤナギの再樹林化防止を目的に環状剥皮活動を地元中学生と連携し実施する。 | | | | | ⇒ |
| | | ④三島江野草地区クリーンアップ大作戦<br>冬季 | ・ゴミの収集を行い水質・底質、景観の改善を行う。 | | | | | ⇒ |
| | | ⑤公園管理者への報告会 | ・公園管理者へタマリのモニタリング調査、外来水草駆除、「仮説の検証」結果の報告<br>・「環状形成層剥皮法」の実験地の効果検証の報告 | | | | | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | ・対応案の作成 | ① 意見交換会の開催（対応案の作成） | ・「仮説の検証」結果を踏まえ、タマリのより良い改良計画案の作成 | | | | | ⇒ |
| | | ②タマリ生き物観察会　　春、秋季 | ・中学生を対象にタマリの生き物を観察する。<br>・改良計画案に基づきタマリを保全する。<br>問診型モニタリング調査：投網、たも網魚貝類調査<br>維持管理：外来水草を駆除、ヤナギの環状剥皮 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ③野草地区のヤナギの再樹林化防止のため環状形成層剥皮活動 | ・ヤナギの再樹林化防止を目的に環状剥皮活動を地元中学生と連携し実施する。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ④三島江野草地区クリーンアップ大作戦<br>冬季 | ・三島江野草地区のゴミの収集を行い水質・底質、景観の改善を行う。 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ⑤公園管理者へ提案 | ・公園管理者へ「環状形成層剥皮法」の手引き及びタマリ保全計画の提案を行う。 | | | | | |

**②三島江野草地区の利用**

| 段階 | 段階毎の目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 現状と課題の共有 | ①現地見学会、意見交換会の開催（現状と課題の共有）<br>（タマリ保全の現地見学会と同時に開催） | ・野草地区について参加者、管理者が現状（知っていること）及び課題（心配していること）を共有する。<br>・住民意見の聴取や住民の河川に関わるニーズの収集（アンケート調査）を行う。 | | | | | ⇒ |
| | | ②～春の淀川・玉川を歩く（淀川フィールドワーク）～ | 淀川の歴史、文化、自然環境、地域の状況などの紹介や、地域の施設の見学など行う。<br>堤防の改修やワンドなどの河川敷の整備の必要性、自然環境保全、水辺の安全について現地を歩きながら体験する。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ③三島江野草地区の利用WGの開催 | ・公園管理者、河川公園センターで三島江野草地区の利用について、現地見学会、意見交換会の意見をももとに検討する。 | | | | | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 対応の合意形成 | ①意見交換会の開催（対応の合意形成）<br>・ワンド保全の意見見学会と同時に開催する。 | ・野草地区について参加者の「疑問・意見・提案」及び管理者が「していること」「しようとしていること」の合意形成を図る。<br>・対応の合意形成を目的に住民意見の聴取や住民の河川に関わるニーズの収集（アンケート調査）を行う。 | | | | | ⇒ |
| | | ②三島江野草地区の利用WGの開催 | ・公園管理者、河川公園センターで三島江野草地区の利用について、対応の合意形成をもとに検討する。 | | | | | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 対応案の作成 | ①意見交換会の開催（対応のコンセンサス、対応案の作成） | ・参加者、管理者で対応のコンセンサスに基づき、協働で利用の在り方の対応案を作成する。<br>・対応案の作成を目的に住民意見の聴取や住民の河川に関わるニーズの収集（アンケート調査）を行う。 | | | | | ⇒ |
| | | ②三島江野草地区の利用WGの開催 | ・公園管理者、河川公園センターで野草地区の利用について、対応のコンセンサスをもとに検討する。<br>・「三島江野草地区利用計画（案）」を作成する。 | | | | | ⇒ |

**2. 課題、疑問点、相談したいことなど**

2. 1ステップアップする上での課題
（１）タマリの保全（モニタリング調査、維持管理）
・淀川河川事務所河川公園化、淀川河川公園管理センターとの連携
・野草地区や唐崎地区のワンド保全にも自然保護団体等と調査・連携した活動を進める。

（２）三島江野草地区の利用　→目的毎に作成
・三島江野草地区の利用WGの設置　公園センターとの調整

2. 2活動していく上での課題
（１）タマリの保全（モニタリング調査、維持管理）
「ワークショップ」
・課題と場所の検討
・地域の対象者の選定について、地域団体等と協議
「地域との連携」
・地域の公民館や自治会等と連携しながら、川に関わる防災学習・環境学習に地域の青少年や子育て世代の多くの参加が得られるように取り組む。

（２）三島江野草地区の利用　→目的毎に作成
「川と安全にふれあう場所等の選定」
・三島江河川公園で継続して取り組める場所や課題を公園管理センターの協力を得ながら検討していく。

| 氏名 | 竹本 克巳 | 区分 | 河川レンジャー（2期2年目） | 所属 | 高槻出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

**１．活動の目的・目標**

1.1活動の目的 ⇒淀川水系河川整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等:
　子どもの遊び方が多様化し、水辺で遊びふれあう機会が減少しています。水辺への関心、遊びなどを通して「川の防災教育」をすすめる。
また、近年の自然災害、特に降雨災害は各地で増加している一方、住民の意識は低く、被害が多発している現状があり「防災」への関心を高めていくことが求められている。
そのために、子どもたちには、身近な河川での自然体験学習や淀川の歴史を学び関心を高めます。また、高齢者など地域住民には、身近な河川である淀川の歴史を紐解きながら地域防災や河川への理解を深めて行くことなどを目指します。

（2）川の課題と河川整備計画のつながり
現状の課題：
　①人と川のつながり
　かつて川は都市化の進展やライフスタイルの変化などで人々の生活から遠ざかり、危険な場所とみなされ、人と川との繋がりが薄れていった。川は、生物の生息生物の生息・生育・繁殖環境として地域に残された貴重な自然環境を有する場であり、そのような地域の財産を多くの人々が享受し、利用する場であり、さらには地域固有の風土・文化を形成してきた重要な要素でもある。そのような環境を将来にわたって保全・再生していくためには、住民・住民団体(NPO 等)が主体的に、あるいは自治体等が河川管理者と連携して、地域の特性や実情に応じた手法で、川をともに守り、育てていくという地域における人と川とのつながりを再構築していくことが求められている。特に子どもたちに川の価値を伝える活動を充実させる必要がある。
　②洪水・災害時の人と川とのつながりの構築
　１）「ハザードマップ」等の分かり易い情報発信
　個々の住民が日頃より洪水に対する危険性を具体的に意識できるよう、近年発生した洪水等について浸水実績水位及び発生原因、浸水想定区域や避難経路・避難場所等の「ハザードマップ」を推進する。淀川における治水、防災に関する情報を　わかりやすく発信し、洪水時における住民と淀川の関わりについても理解を深めていただくよう努める。
　２）関係機関との連携
　淀川流域の市町と連携し水害に強いまちづくりなどの意見交換等を行い施設見学会や、過去の水害の歴史と教訓の伝承などを共有できる場づくりをするため、関係機関と連携した取り組みを行う。また、水害の歴史や教訓の伝承なども行う。
〇河川整備計画該当部分
　・3.7 関連施策
　　4.1 人と川とのつながり
　　　4.1.2 日常からの人と川のつながりの構築
　　　4.1.3 洪水・災害時の人と川とのつながりの構築
　　　　4.3.2 淀川水系における治水・防災対策

（3）活動の目的及び目標
　①川の防災活動
　　目的：防災への関心を高める。
　　目標：住民意識の向上と被害の軽減
　②淀川の歴史の探求
　　目的：身近な淀川の歴史を学ぶ。
　　目標：歴史を紐解きながら地域防災や河川への理解を深める。

**1.2　最終的な目標**

・地域での防災リーダーの育成
　自治体・自治会と連携して地域特性をふまえた防災学習

**1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力**

| 段階 | 段階毎の目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | ・現状と課題の共有<br>・問題・課題が発生した因果関係から「仮説を設定」 | ①川に関わる防災学習会 | 地域自治会、学校、公民館等の要請に応じた学習会への協力 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ②河川管理施設等の見学会 | 地域自治会等からの依頼を受けた見学会への協力や企画した見学会の開催 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | ・対応の合意形成<br>・改良に繋がる「仮説の検証」 | ① 防災リーダーの育成 | 自治体、自治会等と連携して地域特性をふまえた防災学習の企画・運営 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ②地域と連携した防災体験学習会 | 自治体、自治会等と連携して地域特性をふまえた防災体験学習の企画・運営 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | ・対応案の作成 | ①　「川の防災」や「河川整備」についてのワークショップ | 地域住民等と連携して河川整備に関する意見交換の場づくりや意見交換会を開催する | | | | | ⇒ |
| | | ②河川管理者への提案 | 意見交換会の開催を通じて、河川管理者に川の防災や河川整備について発信していく | | | | | ⇒ |

**2. 課題、疑問点、相談したいことなど**

2.1ステップアップする上での課題
（１）防災学習
・自治体や自治会等との連携手法の構築
・淀川の歴史の伝承について、情報収集と方法
（２）ワークショップ
・課題と場所の検討
・自治体・自治会等と協議し対象者の選定

2.2活動していく上での課題
（１）防災学習や川の歴史の伝承
「ワークショップ」
・課題と場所の検討
・地域の対象者の選定について、地域団体等と協議
「地域との連携」
・地域の公民館や自治会等と連携しながら、川に関わる防災学習・環境学習に地域の青少年や子育て世代の多くの参加が得られるように取り組む。
（２）広報と参加者の募集
・公民館などと連携して、広く参加者をつのる。
・学校や自治会等との繋がりを持ち継続的な活動とし発展させる

| 出張所 | 高槻 | 高槻 | 高槻 | 高槻 |
|---|---|---|---|---|
| 氏名 | 竹本　克巳 | 竹本　克巳 | 竹本　克巳 | 竹本　克巳 |
| No. | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | 春の淀川とその周辺を歩く（淀川フィールドワーク） | 防災体験学習会～地域の水害について考えてみよう | 防災体験学習会～地域の水害について考えてみよう | 環境学習～自然とのふれあい（三島江公園）野鳥探索 |
| 主たる活動分野 | E歴史・文化 | A治水・防災 | A治水・防災 | B環境保全 |
| 活動目的<br>（１００字程度） | 地域を流れる淀川や地域の川とのつながりを深め、淀川の歴史、文化などを学び共有する。<br>川とふれあう場をつくり、自然を体験しながら河川への理解を深める。 | 地域防災会や公民館等と連携し、水害（水難）時における安全対策やハザードマップ等について、地域団体の要望を取り入れた企画を行い体験しながら防災意識を高める。 | 地域防災会や公民館等と連携し、水害（水難）時における安全対策やハザードマップ等について、地域団体の要望を取り入れた企画を行い体験しながら防災意識を高める。 | 野鳥観察を通じて川とふれあう場をつくり、自然を体験しながら河川への理解を深める。 |
| 活動内容<br>（１００字程度） | 淀川の歴史、文化、自然環境、地域の状況などの紹介や、地域の施設の見学など行う。<br>堤防の改修やワンドなどの河川敷の整備の必要性、自然環境保全、水辺の安全について現地を歩きながら体験する。 | 淀川の歴史、文化、自然環境、地域の状況などの紹介やマイタイムライン、防災マップ作成を通じて防災（水難）学習をする。 | 淀川の歴史、文化、自然環境、地域の状況などの紹介やマイタイムライン、防災マップ作成を通じて防災（水難）学習をする。 | 三島江河川公園野草地区に訪れる野鳥と冬の野草地区を探索する。 |
| 運営形態 | 共催 | 共催 | 共催 | 共催 |
| 市民団体等 | 地域の公民館（共催） | 地域の自治会等（共催） | 地域の自治会等（共催） | 高槻市三箇牧公民館との共催 |
| 行政機関 | 高槻出張所<br>高槻市 | 高槻出張所<br>高槻市 | 高槻出張所<br>高槻市 | 高槻出張所<br>高槻市 |
| 学校関係 | | | | |
| 活動予定月（日） | 5月頃（時期未定、主催者と調整） | 7月頃（時期未定、主催者と調整） | 7月頃（時期未定、主催者と調整） | 1月下旬から２月初旬 |
| 活動場所(市町村) | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 | |
| 活動場所 | 淀川沿いの地域<br>淀川三島江堤防及び河川敷切り下げ区域（野草区域）周辺など<br>（雨天の場合、延期） | 淀川沿いの地域（高槻市内） | 高槻市の山間部の地域（高槻市内） | 三島江河川敷公園及び野草地区 |
| 参加対象者 | 淀川沿いの地域及び市内住民等 | 淀川沿いの地域住民、自主防災組織等 | 地域住民、自主防災組織等 | 淀川沿いの地域及び市内住民等 |
| 定員 | 20人 | 40人 | 40人 | 20人 |
| 4月 | 実施 | 関係各所との打合せ、下見及び日程調整 | 関係各所との打合せ、下見及び日程調整 | |
| 5月 | 活動のまとめ | 会場借用申込, | 会場借用申込, | |
| 6月 | 関係各所へ報告 | 広報、チラシの作成、チラシの作成 | 広報、チラシの作成、チラシの作成 | |
| 7月 | | 実施 | 実施 | |
| 8月 | | 活動のまとめ | 活動のまとめ | |
| 9月 | | 関係各所へ報告 | 関係各所へ報告 | |
| 10月 | | | | 関係各所との打合せ |
| 11月 | | | | |
| 12月 | | | | 地域団体等との調整 |
| 1月 | | | | |
| 2月 | | | | 実施・活動のまとめ |
| 3月 | | | | 関係各所へ報告 |
| スタッフ（人数・役割） | | 他のレンジャーとの協力、補助 | 他のレンジャーとの協力、補助 | レンジャーとの協力、補助（未定） |
| 広報・募集方法 | 地域、団体への呼びかけ<br>市の広報掲載依頼<br>チラシ等の作成 | 地域、団体への呼びかけ<br>市の広報掲載依頼<br>チラシ等の作成 | 地域、団体への呼びかけ<br>市の広報掲載依頼<br>チラシ等の作成 | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 |
| 支援要望事項 | 高槻出張所へ河川敷、堤防整備などの情報提供を依頼 | 高槻出張所へ河川敷、堤防整備などの情報提供を依頼 | 高槻出張所へ河川敷、堤防整備などの情報提供を依頼 | 河川事務所及び高槻出張所へ情報・資料提供を依頼 |
| 水害体験施設の要望 | | | | |
| 安全対策 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | |
| その他 | | | | |

| 出張所 | 高槻 | 高槻 |
|---|---|---|
| 氏名 | 竹本　克巳 | 竹本　克巳 |
| No. | 5 | 6 |
| 活動名 | 川の施設等の見学会 | 意見交換会の開催（対応の合意形成）<br>～環境学習～自然とのふれあい（三島江公園）野鳥探索～ |
| 主たる活動分野 | A治水・防災 | B環境保全 |
| 活動目的<br>（１００字程度） | 施設見学を行い地域を流れる淀川とのつながりを深め、地域住民と連携しながら防災意識を高めるとともに歴史、文化などを学び共有する。<br>川とふれあう場をつくり、自然を体験しながら防災と河川への理解を深める。 | ①タマリの保全<br>目的：劣化防止の知見を得るワンドの保全（モニタリング調査と維持管理）を実施<br>目標：「タマリの保全計画」（モニタリング調査、維持管理）の策定<br>②野草地区の利用<br>目的：自然環境の保全・再生を妨げられることがないよう利用マナーの周知を実施<br>目標：「三島江野草地区の利用計画」の策定<br><br>野鳥観察を通じて川とふれあう場をつくり、自然を体験しながら河川への理解を深める。 |
| 活動内容<br>（１００字程度） | 淀川の関連施設等を見学することにより、防災意識を高める。 | ①タマリの保全<br>・タマリのモニタリング調査結果から「仮説」の検証を行う。<br>②野草地区の利用<br>・野草地区について参加者の「疑問・意見・提案」及び管理者が「していること」「しようとしていること」の合意形成を図る。<br>・対応の合意形成を目的に住民意見の聴取や住民の河川に関わるニーズの収集（アンケート調査）を行う。<br><br>三島江河川公園野草地区に訪れる野鳥と冬の野草地区を探索する。 |
| 運営形態 | 共催 | 共催 |
| 市民団体等 | 地区防災会との共催 | 高槻市三箇牧公民館との共催 |
| 行政機関 | 高槻出張所<br>高槻市 | 高槻出張所<br>高槻市 |
| 学校関係 | | |
| 活動予定月（日） | 令和８年３月中旬 | 1月下旬から２月初旬 |
| 活動場所(市町村) | 不明 | |
| 活動場所 | 場所等については地区防災会と協議し決定 | 三島江河川敷公園及び野草地区 |
| 参加対象者 | 淀川沿いの地域及び市内住民等 | 淀川沿いの地域及び市内住民等 |
| 定員 | ３０人 | 20人 |
| 4月 | | |
| 5月 | | |
| 6月 | | |
| 7月 | | |
| 8月 | | |
| 9月 | | |
| 10月 | | 関係各所との打合せ |
| 11月 | 関係各所との打合せ | |
| 12月 | 地域団体等との調整 | 地域団体等との調整 |
| 1月 | チラシ作成、参加者公募、下見 | |
| 2月 | | 実施・活動のまとめ |
| 3月 | 実施 | 関係各所へ報告 |
| スタッフ（人数・役割） | | レンジャーとの協力、補助（未定） |
| 広報・募集方法 | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 |
| 支援要望事項 | 河川事務所及び高槻出張所へ情報・資料提供を依頼 | 河川事務所及び高槻出張所へ情報・資料提供を依頼 |
| 水害体験施設の要望 | | |
| 安全対策 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | |
| その他 | | |

| 氏名 | 奥山　佳一 | 区分 | 河川レンジャー（1期1年目） | 所属 | 高槻出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

**１．活動の目的・目標**

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画・河川公園整備計画との関連をふまえて記載

（1）活動の背景、
きっかけ等
今まで海や里山などで多くの観察会を実施してきました。観察会に参加してくる子どもたちは、初めて経験する体験活動が多いためか、時間いっぱいまで活動し、楽しんでいました。そんな自然に触れ合うことを楽しむ子どもたちの姿を見るのは、毎回感動的でした。観察会の参加者に感想を聞くと、海や里山だけではなく、河川でのイベントを希望している子どもや保護者が多いことに驚いています。しかし、河川で行われる水生生物等の観察会は、他のフィールドに比べて非常に少ないのが現状です。このためか、河川に興味はあるものの、どこにどんな川があり、どんな環境でどんな生物が生息しているのかを知らない人の多いことを残念に思っていました。大阪は河川の多い所です。もっと身近にある河川のことを多くの子どもたちや大人に知ってもらい、その魅力を伝えていきたい、そんな思いが活動するきっかけとなっています。

（2）川の課題と整備計画のつながり
　〇川の課題：
淀川の本流に近い地域住民でも河川に対しての関心がなく、日常的に河川を意識して生活している人は少ない。河川付近の地域住民はもとより、多くの人達は無関心である。しかし、災害発生時の防災面や水質などの環境面等で河川と関わって生活していることを考えると、もっと日頃から河川を意識して生活していくことが大切である。そのことを多くの住民が理解していないことが課題である。
　〇河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：
3.1　人と川とのつながり
3.5.3.　河川敷
4.1.2.　日常からの人と川とのつながりの構築
4.5.2.　川らしい利用の促進
4.5.3.　憩い、安らげる河川の整備

（3）活動の目的
自分たちが生活している近くを流れる河川に、想像以上に多くの生物が生息して、素晴らしい環境が広がっていることを多くの人に紹介し、子どもから大人まで河川に関心を持つ層を広げていく。そして、地域住民自らが、河川の環境等を守っていくことの必要性を感じてもらい環境保全意識を向上させる。

**1.2　最終的な目標**

将来的に河川レンジャーを頼らず、学区内の子どもたちと地域住民が自らの活動により、河川に対して環境保全活動などを実施していける仕組みを作り上げて

**1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力**

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | ２期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 河川に近い学校を中心に、出前授業を通して、河川の作り変えの歴史、環境、防災、利用などを多くの子どもたちに伝え、河川に対しての意識を高めていく。さらに実際に河川の水生生物観察を通して、現状を考えていくきっかけづくりをしていく。 | ①出前授業 | 北摂地区の小中学校で「淀川水系の生物」の紹介や「河川のゴミ問題」など環境に関する講座を実施し子どもたちに河川への関心を持ってもらう活動をする。さらに「河川の改修や治水工事の歴史」についての授業の機会を模索し実施する。 | | ⇒ | ⇒ | | |
| | | ②水生生物観察会 | 参加者が安全に河川に入って水生生物観察会の出来そうな場所を調査検討し、可能であれば観察会を実施する。 | | ⇒ | ⇒ | | |
| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 教員が自ら河川に関わる内容の授業を実施していけるように導き、さらに年間を通し河川教育が出来るようにカリキュラム作りのアドバイスをする。 | ③教員向け研修 | 吹田市、摂津市、茨木市、高槻市の小中学校教員向けに、「淀川水系の生物や環境」「淀川の治水と歴史」などを紹介し、学校の先生を通して児童や生徒に広く知ってもらえるような環境を作っていく。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | ④年間を通しての河川教育実施 | 一年間または六年間を通して河川教育を実施していくことで学校の児童や生徒たちの意識を高め、自ら清掃活動や環境保全活動を実施していけるような場作りを援助する。 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 学校の児童や生徒を中心に清掃活動や環境保全などの取り組みが出来るように仕組みを作る。 | ⑤学区内での交流会 | 河川教育を行った学校の校区地域の人々たちと協力し清掃活動や防災活動、観察会等を実施していけるような流れを作っていく。 | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | | | | | | | |

**2.課題、疑問点、相談したいことなど**

| |
|---|
| |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 | 高槻 | 高槻 |
| 氏名 | | 奥山佳一 | 奥山佳一 | 奥山佳一 |
| No. | | 1 | 2 | 3 |
| 活動名 | | 川ゴミのゆくえについて知ろう(出前授業) | 淀川の作り変えについて知ろう(出前授業) | 河川に生息している生物を通して水生生物観察会) |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | F川づくり・人づくり | B環境保全 |
| 活動目的（１００字程度） | | 川の汚染水やゴミなどが近くの川に流れ海を汚染していることについて学び、自分たちにどんなことが出来るのかを考える。 | 小学生に淀川の昔と今を比べてもらい、淀川がつくりかえられてきた歴史を知ってもらう。そしてなぜ治水工事などが必要なのか考えてもらい、現在の問題点などを気づかせる。 | 近くを流れている河川に多くの生物が生息していることを知り、それらの生物が生息するために川の環境を保全していくことの大切さを考えさせる。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 校区を流れる河川の地図や写真などを利用し、大阪湾に流れて行く道筋を示しながら説明していく。ゴミが自然界に放置されていくと将来どんなことが起こって行くのかも図やグラフを使って示し説明する。 | 地図や写真資料などを利用し、淀川を中心とした大阪の河川の変化を解説する。そして、作り変えられた理由や災害時の注意点などを考えてもらう。 | 今まで河川調査で捕獲した生物の写真を利用し、生物の特徴やどんな環境に生息しているのかを説明する。実際に学校の近くを流れる河川に入る機会があれば観察会を実施する。 |
| 運営形態 | | 主催 | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | | |
| | 行政機関 | | | |
| | 学校関係 | | | |
| 活動予定月（日） | | ７月 | ９月 | 未定 |
| 活動場所(市町村) | | 吹田市など | 吹田市など | 北摂の小学校 |
| 活動場所 | | | | |
| 参加対象者 | | | | |
| 定員 | | | | |
| 年間スケジュール | 4月 | 初回打ち合わせ | 初回打ち合わせ | |
| | 5月 | 日程調整・内容確認 | | |
| | 6月 | 最終確認 | 日程調整 | |
| | 7月 | 事業本番 | 授業内容の確認 | |
| | 8月 | | 最終確認 | |
| | 9月 | | 事業本番 | |
| | 10月 | | | |
| | 11月 | | | |
| | 12月 | | | |
| | 1月 | | | |
| | 2月 | | | |
| | 3月 | | | |
| スタッフ（人数・役割） | | | | |
| 広報・募集方法 | | | | |
| 支援要望事項 | | | | |
| 水害体験施設の要望 | | | | |
| 安全対策 | | | | |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | |
| その他 | | | | |

| 氏名 | 小林　勝男 | 区分 | 河川レンジャー（1期1年目） | 所属 | 高槻出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

**１．活動の目的・目標**

1.1活動の目的　⇒淀川水系河川整備計画との関連を踏まえて記載

（1）活動の背景、きっかけ等
　近年、地球温暖化の影響や気候変動により、日本各地で豪雨災害をはじめとする自然災害が頻発化・激甚化しており、その傾向は今後も続くと予測されています。特に、ゲリラ豪雨や線状降水帯による記録的な大雨による河川の氾濫や広範囲にわたる洪水が増え、台風も強大化する傾向が見られ土砂災害や洪水被害が深刻化している現状があることから、地域連携により防災・減災への関心を高めていくことが求められています。

（2）川の課題と整備計画のつながり
　現状の課題：
　①人と川のつながり
　私達は、日々の生活の中で川からの恩恵を受けると共に頻繁に発生する洪水の脅威にさらされる等、川と密接に関わってきた。しかし、治水対策が進むことによって洪水被害が減少した反面、川に対する畏敬や恐怖心が薄らいだこと、ライフスタイルの変化、都市化の進展に伴う水質の悪化などが相まって川は私達の生活から遠ざかり「川で遊んではいけません」という看板に見られるように、単に「危険な場所」とみなされるなど、人と川とのつながりが薄らいできました。その結果、川の環境や文化、水防活動などの人と川とのつながりが多くの地域で消えつつあります。川は、地域に残された貴重な自然環境を有する場であり、そのような地域の財産を地域の人々が享受し、利用する場であります。そのような環境を将来にわたって保全・再生していくためには、地域住民が主体的に、また、自治体等が河川管理者と連携して、地域の特性や実情に応じた手法で、川を守り、育てていくという地域における人と川とのつながりを再構築していくことが求められています。

　②洪水・災害時の人と川とのつながり
ア）防災意識の啓発
　いつ起こるかわからない洪水などの危険性を出前講座や行政との連携により住民にわかりやすく周知する必要があります。過去の災害を教訓に洪水に対する危険性を具体的に意識できるよう、仮想現実（VR）や拡張現実（AR）などの技術を用いた情報発信や「マイ・タイムライン」の作成支援等を行います。また、小中学校学校と連携し子ども達が、正確な知識や事実に基づいた水害への対処方法を学習できるように、災害発生時の教訓や災害体験者からの聞き取り情報等を防災学習教材としてとりまとめ、活用していきます。そして、河川整備の整備効果等の情報発信を行うことにより、住民の防災意識の啓発を図ることが何より重要です。
イ）ハザードマップの分かり易い情報発信
　個々の住民が日頃より洪水に対する危険性を具体的に意識できるよう、ハザードマップの活用を更に推進する必要があります。また、淀川における治水、防災に関する情報をわかりやすく発信し、洪水時における地域住民と淀川の関わりについても理解を深めて頂くアプローチが必要です。
ウ）地域との連携
　水害については、淀川流域の市町と連携し水害に強いまちづくりなどについて意見交換できる場を設け、過去の水害の歴史と教訓の伝承などを共有につながるような連携した取り組みを行う必要があります。
　③水難事故防止（水辺の安全利用啓発）
　水難事故を引き起こす個人の不注意やアクシデントについては、啓発活動を持続的に展開することが大切ですが関係機関と連携することにより更に効果が上がります。

　河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：
・3.7 関連施策
　　4.5.2. 川らしい利用の促進（４）安全利用のための対策
　　4.1 人と川とのつながり
　　4.1.2 日常からの人と川のつながりの構築
　　4.1.3 洪水・災害時の人と川とのつながりの構築
　　4.3.2 淀川水系における治水・防災対策

（3）活動の目的
　①川の防災活動
　　目的：防災に関する関心を高め、地域住民が自ら身近な川と災害リスクを正しく理解し、日常から備える意識を育むことを目的とする。
　　また、淀川の歴史を水害学習の一環として学び、地域が受け継いできた治水・防災の知恵を理解する機会をつくる。
　②水難事故防止（水辺の安全利用啓発）
　　目的：淀川の特性や川に潜むリスクを住民が正しく理解し、安全に川を利用できる知識と意識を広めることを目的とする。地域と連携し、水辺の安全利用を根付かせる。

**1.2　最終的な目標**

①川の防災活動：地域住民に対し、身近な河川である淀川の歴史を紐解きながら、地域防災や河川への理解を深めることで、災害への備えにつなげる。具体的には、地域における防災の担い手（将来のリーダー）を育成する。
②水難事故防止（水辺の安全利用啓発）：市や地元小中学校、自治会等と連携して地域特性をふまえた川の安全利用を定着させる。

1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 課題の共有 | 地域連携で淀川の安全を考えよう | 川の防災に関わる学習会 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | 水辺の安全授業「着衣泳　浮いて待て」 | 川の安全利用についての学習会を企画立案運営 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | 課題に対する検討 | 防災の担い手（将来の防災リーダー）の育成 | 高槻市、自治会等と連携して地域特性をふまえた川の安全利用についての学習会の企画・運営 | | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| | | 地域と連携した川の安全利用に関わる学習会 | 高槻市、自治会等と連携して地域特性をふまえた川の安全利用についての学習会の企画・運営 | | | ⇒ | ⇒ | ⇒ |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | 対応案の作成 | ①川の防災に関わる学習会や河川整備についてのワークショップ | 地域住民等と連携して河川整備に関する意見交換の場を設ける | | | | ⇒ | ⇒ |
| | | ②河川管理者への提案 | 意見交換会の開催を通じて、河川管理者に川の防災や河川整備について発信していく | | | | | ⇒ |

2.課題、疑問点、相談したいことなど

2.1ステップアップする上での課題
（１）川の防災に関わる学習会
・高槻市や自治会等と連携するにあたって、助言や評価を賜りたい。
・淀川の歴史を伝承するにあたって、情報の提供、助言や評価を賜りたい
（２）川の防災に関わる体験学習
・運営にあたって、河川レンジャーの協力を賜りたい

2.2活動していく上での課題
（１）地域との連携
・地域の公民館や自治会等と連携しながら、川の安全利用についての学習会・環境学習に地域の青少年や子育て世代の多くの参加が得られるように取り組む。
（２）広報と参加者の募集
・公民館などと連携して、広く参加者を募ると共に、小中学校や連合自治会等との繋がりを持ち継続的な活動とし発展させる

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 | 高槻 |
| 氏名 | | 小林勝男 | 小林勝男 |
| No. | | 1 | 2 |
| 活動名 | | 地域連携で淀川の安全を考えよう | 水辺の安全授業「着衣泳　浮いて待て」 |
| 主たる活動分野 | | A治水・防災 | C河川利用 |
| 活動目的（１００字程度） | | 災害発生時の危険性を理解してもらうことにより、防災意識の啓発を目的とする。 | 着衣泳の指導や水難事故防止に役立つライフジャケットの着用方法などに関してわかりやすく解説した後、着衣泳体験及びライフジャケットを着用させた状態で使用方法・泳法を体験させ水辺の安全利用を学ぶ。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 「浸水歩行体験」や「マイタイムラインづくり」で避難上のリスクを洗い出し、そのような状況になるまでに避難することを促す。 | ①着衣で入水し水の抵抗や重さを体験する。②ペットボトルを使用して浮く体験。③ライフジャケットの着用使用方法、使い方、泳ぎ方の説明・体験 |
| 運営形態 | | 共催 | 共催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | |
| | 行政機関 | | |
| | 学校関係 | 高槻市立第七中学校 他 | 高槻市立柱本小学校 他 |
| 活動予定月（日） | | ○月 | ○月 |
| 活動場所(市町村) | | 高槻市 | 高槻市 |
| 活動場所 | | 中学校のグランド | 小学校のプール |
| 参加対象者 | | 中学校の生徒 | 小学校の児童 |
| 定員 | | | |
| 年間スケジュール | 4月 | | |
| | 5月 | | 下見 |
| | 6月 | | 物品手配 |
| | 7月 | | 実施 |
| | 8月 | 下見 | |
| | 9月 | 物品手配 | |
| | 10月 | 実施 | |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |
| | 3月 | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 実技訓練の安全管理、指導応援（人数は4名） | 実技訓練の安全管理、指導応援（人数は2名） |
| 広報・募集方法 | | | |
| 支援要望事項 | | 浸水歩行体験資機材等の借用 | ライフジャケット等機材等の借用 |
| 水害体験施設の要望 | | 浸水地歩行体験キット（フリー） | |
| 安全対策 | | 下見を行い、使用物品についても入念にチェックをする。また、当日は安全管理担当者を配置する（AEDは中学校所有物を使用）。 | 下見を行い、使用物品についても入念にチェックをする。また、当日は安全管理担当者を配置する（AEDは小学校所有物を使用）。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | |
| その他 | | 実施時期は相手側の要望をふまえて決定させて頂きます。 | 実施時期は相手側の要望をふまえて決定させて頂きます。 |

| 氏名 | 竹本 晃佑 | 区分 | 河川レンジャー（試行期間） | 所属 | 高槻出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

**１．活動の目的・目標**

1.1活動の目的　⇒着衣泳・ライフジャケット体験

（1）活動の背景、きっかけ等
昨今流行り病の影響が大きく、川遊び（外遊び）の機会が減少している。親子共に慣れない環境であるため軽微な事故を含め、死亡事故も定期的に発生しており、川の安全な遊びや、事故を防ぐ対策を勉強する場を設ける必要があると考える。施設のプールを利用して着衣永・ライプジャケット体験を行うことで、万一水中へ落ちた際に冷静に行動出来るよう実際に水中で動く訓練を実施し、事故を防ぎ重症化とならぬよう事前対策を周知したい。

（2）川の課題と整備計画のつながり
・川の課題：人と川のつながり
上記事故等により川は危険であり、近づかない場所とみなされ、人とのかかわりが希薄となっている。子供を通じて地域住民が改めて人と川との繋がりを意識しできるような学びの場としたい。
・河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：
3.7 関連施策　4.1 人と川のつながり　4.1.2 日常からの人と川のつながりの構築

（3）活動の目的
川の防災活動
①防災への関心を高める　②地域住民の意識向上　③被害の軽減

**1.2　最終的な目標**

川の事故発生件数0件を目指す。

**1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力**

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 活動名 | 活動内容 | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | | | | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 現状と課題の共有 | 着衣泳・ライフジャケット体験 | 施設のプールを利用して着衣永・ライプジャケット体験を実施。 | ⇒ | ⇒ | | | |
| | | 防災学習会 | 自治会、学校等にて学習会の機会を得、学習会を実施。居住エリアの危険性の高い場所の把握とし防災マップ作成、現地見学。 | | | ⇒ | | |
| | | | | | | | | |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

**2.課題、疑問点、相談したいことなど**

自治会、学校等へのPRタイミングや注意事項、提案資料作成について相談の場を設けていただきたく。

| 氏名 | 竹本 晃佑 | 区分 | 河川レンジャー（試行期間） | 所属 | 高槻出張所 |
|---|---|---|---|---|---|

## １．活動の目的・目標

1.1活動の目的　⇒唐崎ワンド現地学習会

（1）活動の背景、きっかけ等
河川環境整備にて唐崎ワンド3号ワンド、4・5号ワンドの整備を実施。本ワンドの周知のため、魚類（在来種・外来種）・昆虫類の生息確認、水質調査、外来植物の抑制、環境保護のため周囲ごみの除去を行う。川が生物の生息・生育・繁殖環境として貴重な自然環境であることを地域住民の共通認識となるよう関心を持っていただくためのきっかけとしたい。

（2）川の課題と整備計画のつながり
・川の課題：
①人と川のつながり
　淀川ワンドは以前より地域住民と関わり合いながら整備されてきた歴史があり、本ワンドの整備目標を地域住民に周知し、環境に関する意識向上となるよう取り組みたい。
②環境保全
　整備した各ワンド環境を良好に保つため、多くの人へ環境保全意識付けが必要である。地域住民に本ワンドの初期状態を把握いただき各自ができる範囲で自主的にゴミの除去等環境維持を実施する状態を作りたい。

・河川整備計画・河川公園整備計画　該当部分：
3.2.6 生物の生息・生育・繁殖環境　3.6 維持管理　4.1 人と川のつながり

（3）活動の目的
川の環境維持
①河川環境整備の関心を高める　②環境維持の自主活動の促し

### 1.2　最終的な目標

地域住民による継続した環境保全活動。

### 1.3　段階的な活動の目標　目的を達成するための段階ごとの目標とそれを達成する手段（活動内容）を記載　⇒目標達成までの期間を入力

| 段階 | 目標 | 活動内容 | | 取り組む時期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 試行期間 | 1期 | | 2期 | |
| | | 活動名 | 活動内容 | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 |
| Step1<br>地域住民の関心を高める | 現状と課題の共有<br>河川環境整備を行う現場を見学し、状態を知る。 | 淀川ワンド学習会 | 自治会、学校等にて学習会の機会を得、学習会を実施。淀川ワンドの歴史を学ぶ。現地見学。 | ⇒ | ⇒ | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| Step２<br>河川レンジャーと管理者が協働して取り組む | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| Step３<br>地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

## 2. 課題、疑問点、相談したいことなど

魚類（在来種・外来種）・昆虫類の生息確認、水質調査、外来植物の抑制についての資料作り、また生物調査方法、水質調査方法等について相談したい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 | 高槻 |
| 氏名 | | 竹本　晃佑 | 竹本　晃佑 |
| No. | | 1 | 2 |
| 活動名 | | 着衣泳・ライフジャケット体験 | 唐崎ワンド現地学習会 |
| 主たる活動分野 | | A治水・防災 | D維持管理 |
| 活動目的（１００字程度） | | 川の特徴、水辺で遊ぶ安全を学び、川とのつながりづくり。 | 現地見学を行い淀川の環境についての知識を学び、地域住民の河川への理解を深める。 |
| 活動内容（１００字程度） | | 施設のプールを利用して着衣永・ライプジャケット体験。また、水辺の安全対策の勉強。 | 唐崎ワンドの周知、魚類（在来種・外来種）・昆虫類の生息確認、水質調査、外来植物の抑制、環境保護のため周囲ごみの除去。 |
| 運営形態 | | 主催 | 主催 |
| 連携予定 | 市民団体等 | | |
| | 行政機関 | | 高槻出張所 |
| | 学校関係 | 幼稚園、小学校（幼稚園はライフジャケットサイズによる） | |
| 活動予定月 | | ６～7月頃 | 6~7月頃 |
| 活動場所(市町村) | | 島本町、高槻市、茨木市、摂津市 | 高槻市 |
| 活動場所 | | 幼稚園、小学校 | 唐崎ワンド |
| 参加対象者 | | 小学校3年生以下（教員参加） | 地域住民等 |
| 定員 | | 1学年（人数により複数回に分ける） | 20~30名程度 |
| 年間スケジュール | 4月 | 提案資料作成・各施設への訪問アポイント、配布・説明訪問 | 関係各所との打ち合わせ及び下見、日程調整、広報、チラシの作成 |
| | 5月 | 具体的な内容について打合せ、日程調整、チラシの作成 | |
| | 6月 | | 実施1回目 |
| | 7月 | 実施 | |
| | 8月 | | |
| | 9月 | | |
| | 10月 | | 関係各所との打ち合わせ及び下見、日程調整、広報、チラシの作成 |
| | 11月 | | |
| | 12月 | | 実施2回目 |
| | 1月 | | |
| | 2月 | | |
| | 3月 | | |
| スタッフ（人数・役割） | | 3～4人、プールサイド各所から監視、説明・補助 | 他のレンジャーへの協力<br>生物観察スペシャリスト1名、補助・2名程度 |
| 広報・募集方法 | | 各所への直接アポイント、訪問。 | 地域団体への呼びかけ、チラシ作成 |
| 支援要望事項 | | 過去の広報、募集方法があれば共有願いたい。 | 唐崎ワンドについての情報・資料提供 |
| 水害体験施設の要望 | | | |
| 安全対策 | | 緊急時マニュアルの作成、スタッフ間での共有。 | 緊急マニュアルの作成、スタッフ間での共有。<br>天候等当日の環境に合わせて休憩を設ける、また感染症対策。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | 防災に関する配布チラシ、ライフジャケットの着用方法説明チラシなど、河川レンジャーが過去配布または作成した資料などがあれば共有願います。 | 生き物の調査方法について専門知識と技量が不足している。 |
| その他 | | | |

連携活動

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 | 高槻 | 高槻 | 高槻 |
| 氏名 | | 竹本　克巳 | 竹本　克巳 | 竹本　克巳 | 竹本　克巳 |
| 連携レンジャー | 1氏名・役割 | 竹本克巳R：各機関との調整や現地調査、当日の受付及び整理 | 竹本克巳R：企画、資料収集・作成、現地下見、公民館との調整、報告書作成 | 竹本克巳R：企画・構成及び各機関との調整、運営 | 竹本克巳R：企画・構成及び各機関との調整、運営 |
| | 2氏名・役割 | 酒井信行RA：野草地区の紹介、まとめ | 酒井信行RA：受付及び河川公園の案内 | 小林勝男R：企画及び運営、その他補助 | 小林勝男R：企画及び運営、その他補助 |
| | 3氏名・役割 | | | | |
| No. | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 活動名 | | タマリ生き物観察会<br>～自然とのふれあい（三島江野草地区）～ | 淀川・芥川クリーンアップ大作戦 | 防災指導員対象防災学習 | 水辺の安全学習 |
| 主たる活動分野 | | B環境保全 | B環境保全　D維持管理 | A治水・防災 | C河川利用 |
| 連携理由欄 | | 以前からの野草地区の取組み等を継続していて公園の内容を熟知されているので協力して活動するため | 公園周辺の清掃活動を円滑に行うため | 学習活動を円滑に行うため | 学習活動を円滑に行うため |
| 活動目的<br>（１００字程度） | | ①タマリの保全<br>　目的：劣化防止の知見を得るタマリの保全（モニタリング調査と維持管理）を実施<br>　目標：「タマリの保全計画」（モニタリング調査、維持管理）の策定<br><br>地域を流れる淀川や地域の川とのつながりを深め、淀川の歴史、文化などを学び共有する。<br>川とふれあう場をつくり、自然を体験しながら河川への理解を深める。 | ①タマリの保全<br>　目的：劣化防止の知見を得るタマリの保全（モニタリング調査と維持管理）を実施<br>　目標：「タマリ保全計画」（モニタリング調査、維持管理）の策定<br><br>淀川水系一斉美化アクション<br>一斉清掃を行い、水辺環境の保全とマナーの向上に繋げる<br>環境美化、水辺環境保全、ゴミを捨てないマナーアップに取り組み、淀川水系をみんなの手で美しく守って行く。 | 高槻市と連携して、市内の防災指導員対象に防災学習を行い、防災意識の向上と地域でのリーダーを育てる | 高槻市と連携して、夏休み期間を利用して市内の小学生等対象に、川の利用にあたって危険個所に関する情報提供や安全な利用の仕方などの水辺の安全利用の啓発等を行う |
| 活動内容<br>（１００字程度） | | ・中学生を対象にタマリの生き物を観察する。<br>・「仮説」に基づきタマリ保全を実施する。<br>　問診型モニタリング調査：投網、たも網魚貝類調査<br>　維持管理：外来水草を駆除、ヤナギの環状剥皮<br><br>淀川の自然環境、地域の状況などを紹介する。<br>堤防の改修やワンドなどの河川敷の整備の必要性、自然環境保全、水辺の安全について現地を歩きながら体験する。 | ・野草地区のゴミの収集を行い水タマリの質・底質及び景観の改善を行う。<br><br>河川敷公園及び周辺のゴミ拾い | 防災指導員対象に期間を定め、防災学習（マイ・タイムラインなど）実施し防災意識を高める | 市内の小学生等対象に、川の利用にあたって危険個所に関する情報提供や水辺の安全利用と河川利用者への利用マナーの啓発等を行う<br>・市内を流れる川の紹介<br>・川の安全利用・安全対策 |
| 運営形態 | | 共催 | 共催 | 協力 | 協力 |
| 連携予定 | 市民団体等 | 地域の自治会員及び地元住民 | | 市内の防災指導員等 | 市内の小学生等 |
| | 行政機関 | 高槻出張所<br>高槻市 | 高槻出張所<br>大阪府、高槻市 | 高槻出張所<br>高槻市 | 高槻出張所<br>高槻市 |
| | 学校関係 | | | | |
| 活動予定月（日） | | １０月中旬 | 令和9年３月上旬 | 令和８年7月～8月及び9月～10月 | 令和８年～9月 |
| 活動場所(市町村) | | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 | 高槻市 |
| 活動場所 | | 淀川沿いの地域 | 三島江河川公園 | 高槻市役所 | 高槻市役所 |
| 参加対象者 | | 淀川沿いの地域及び市内住民等 | 淀川沿いの地域及び市内住民等 | 市内住民 | 市内の小学生等 |
| 定員 | | 20人 | ３０人 | 各回１０名×４回程度 | |
| 年間スケジュール | 4月 | | | | |
| | 5月 | | | 関係各所との打ち合わせ | |
| | 6月 | | | 準備 | 関係各所との打ち合わせ |
| | 7月 | | | 実施 | 準備 |
| | 8月 | | | 活動のまとめ、報告 | 実施 |
| | 9月 | 関係各所との打合せ、下見 | | | 活動のまとめ、報告 |
| | 10月 | 実施 | | | |
| | 11月 | 活動のまとめ | | | |
| | 12月 | 関係各所へ報告 | 高槻市の実行委員会に参加 | | |
| | 1月 | | チラシ作成、参加者公募、下見 | | |
| | 2月 | | 参加者公募 | | |
| | 3月 | | 実施 | | |
| スタッフ（人数・役割） | | レンジャーとの協力、補助（未定） | | レンジャーとの協力 | レンジャーとの協力 |
| 広報・募集方法 | | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 |
| 支援要望事項 | | 高槻出張所へ河川敷、堤防整備などの情報提供を依頼 | 高槻出張所へ火ばさみ等の用具借用 | 高槻出張所からの情報提供 | 高槻出張所からの情報提供 |
| 水害体験施設の要望 | | | | | |
| 安全対策 | | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | | | | |
| その他 | | | | | |

連携活動

| | | |
|---|---|---|
| 出張所 | | 高槻 |
| 氏名 | | 竹本　克巳 |
| 連携レンジャー | 1氏名・役割 | 竹本克巳R：企画・構成及び各機関との調整、運営 |
| | 2氏名・役割 | 小林勝男R：企画及び運営、その他補助 |
| | 3氏名・役割 | |
| No. | | 5 |
| 活動名 | | 公園管理者への報告会 |
| 主たる活動分野 | | A治水・防災 |
| 連携理由欄 | | 学習活動を円滑に行うため |
| 活動目的<br>（１００字程度） | | 高槻市と連携して、市内の学校対象に防災学習を行い、防災意識の向上と川の歴史や魅力を伝える |
| 活動内容<br>（１００字程度） | | 高槻市と連携して、市内の学校対象に防災学習を行い、防災意識の向上と川の歴史や魅力を伝える<br>・マイ・タイムライン作成<br>・洪水の歴史<br>・川の魅力発見 |
| 運営形態 | | 協力 |
| 連携予定 | 市民団体等 | |
| | 行政機関 | 高槻出張所<br>高槻市 |
| | 学校関係 | |
| 活動予定月（日） | | |
| 活動場所(市町村) | | |
| 活動場所 | | |
| 参加対象者 | | |
| 定員 | | |
| 年間スケジュール | 4月 | |
| | 5月 | |
| | 6月 | |
| | 7月 | |
| | 8月 | 関係各所との打ち合わせ |
| | 9月 | 準備 |
| | 10月 | 実施 |
| | 11月 | 実施 |
| | 12月 | 実施 |
| | 1月 | 実施 |
| | 2月 | 実施 |
| | 3月 | 活動のまとめ、報告 |
| スタッフ（人数・役割） | | レンジャーとの協力 |
| 広報・募集方法 | | 地域、団体への呼びかけ<br>チラシ等の作成 |
| 支援要望事項 | | 高槻出張所からの情報提供 |
| 水害体験施設の要望 | | |
| 安全対策 | | 緊急時マニュアルを作成、スタッフ間で共有する。<br>野外での活動は天候に合わせ適宜の休憩等配慮する。<br>感染症対策を整えたうえ実施する。 |
| 実施に向けて困っている事・課題 | | |
| その他 | | |